

北海道

第4次当別町生涯学習推進計画

～当別に暮らす人にとっての

生涯にわたる「まなび」の道しるべ～



(伊達記念館・伊達邸別館入口)



(当別赤れんが6号「ふれあい倉庫」)



(亜麻畑 当別町東裏)



(スウェーデン交流センター)

当別町教育委員会

- 目次(contents) -

●目次	1
○発刊にあたって	2
◎当別町民憲章	3
◎当別町教育目標	4
○当別町生涯学習推進計画策定に向けて	5
○計画策定の体系図	6
○計画の位置づけ	7
○乳幼児期（保育所・幼稚園など）	8～10
○青少年期（小学校）	11～14
○青少年期（中学校）	15～18
○青少年期（高等学校など）	19～20
○成人期	21～22
○熟年期	23～24
○一体型による一貫教育の検討	25～26
○家庭教育の支援	27
○生涯学習の環境整備	28～29
○当別町学校支援地域本部事業	30
○評価・検証について	31～32
資料1 社会教育委員による第3次当別町生涯学習推進計画 の評価・検証の流れ	33
資料2 第3次当別町生涯学習推進計画評価シート	34～37
資料3 当別町グループアンケート調査結果	38～41
資料4 当別町グループアンケート調査集計表	42～57
資料5 第4次当別町生涯学習推進計画策定委員会名簿	58
資料6 第4次当別町第4次生涯学習推進計画策定経過	59
○あしがき	60

発刊にあたって

当別町におきましては、平成21年3月に生涯学習社会の構築を進めるための指針となる「第3次当別町生涯学習推進計画」を策定し、町民がいつでもどこでも自由に学習できる機会を選び、学び、その成果を地域社会に生かせる生涯学習社会の推進を図ってきたところです。

今日、社会の成熟と急速な情報化の進展にともない、人々の生活形態や価値観は著しく多様化しており、自分らしい生き方や自己実現に対する人々の意識や欲求は高まりを見せています。



しかし一方で、多様な人生観が是認される今日においては、人間関係の希薄化や利己的な個人主義の拡大が懸念されています。誰もが心豊かに生きる社会をつくるためには、一人ひとりが個性や自分らしさを育みつつも、同時にお互いの価値観を認め合い、社会性や共存意識を高めていくことが必要となります。そのためには、町民一人ひとりがコミュニケーションを深め、生きがいを持ち、心豊かな人生を送ることが求められており、今後一層、生涯学習の果たす役割が大きくなってまいります。

このたび、当別町の課題や町民の多様なニーズに応えつつ、生涯学習活動の有効かつ効果的な推進を図るための指針として、新たに「第4次当別町生涯学習推進計画」を策定しました。

今後は、この「第4次当別町生涯学習推進計画」に基づき、地域活動団体、教育機関などとの連携を深め、活力ある生涯学習社会の構築をめざしてまいります。

結びになりましたが、本計画の策定にあたり、熱心なご審議をいただきました当別町社会教育委員の皆さまをはじめ、貴重なご意見やご提言をいただきました多くの皆さまに心から感謝を申し上げ、発刊のことばといたします。

平成26年3月

当別町教育委員会

委員長 白井 応隆

当別町民憲章

前 章

私たちは、北海道開拓の歴史に、不朽の功業をしるした当別の町民です。

開基100年にあたり、不屈の開拓精神によって築きあげた祖先の偉業をうけつぎ、万心一致、未来の躍進をねがって、この憲章を定めます。

〔昭和45年6月制定〕

- 1章 自然を愛し 美しく健康なまちをつくります。
- 2章 力をあわせて産業をおこし 豊かなまちをつくります。
- 3章 きまりを守り 明るく住みよいまちをつくります。
- 4章 教養をつみ、かおり高い文化のまちをつくります。
- 5章 未来を担うたくましい子を育て 力のあるまちをつくります。



町の木（白樺）

昭和45年制定



町の花（かすみ草）

平成2年制定



町の鳥（ふくろう）

平成12年制定



当別町章（昭和45年5月制定）

当別町教育目標

強じんな精神とたくましい身体をつくる。

科学的な知識や技能を身につける。

豊かな情操の涵養と文化の創造につとめる。

自主的な判断力と社会的徳性をつちかう。

明るく豊かで住みよい郷土をきずく。

学校教育推進目標

- ひとりひとりを生かす創意ある学校経営。
- 自ら考え創造する力を育てる学習指導。
- 豊かな心で自ら実践する力を育てる生徒指導。
- 生命を尊ぶ態度と強い身体を育てる健康安全指導。

社会教育推進目標

- 自ら学び自ら活動し伝統を生かし当別二世紀をつくる町民の育成。
- 明日を創造する青少年をたくましく育てる社会教育の推進。
- 健康な心身をつくり明るいまちをつくる社会体育の推進。
- 楽しさと生きがいをつくり育てる社会教育の推進。

第4次当別町生涯学習推進計画策定に向けて 平成26年度～30年度（5年間）

1 計画の性格・構成

第3次当別町生涯学習推進計画が平成25年度をもって終了するのに伴い、当別町の生涯学習の基本的な方向を総合的に示すとともに、町民共通の指針としての性格を持つものとする。

なお、構成については、一町民が実際に目に触れて、自己の生涯にわたる学習がライフステージによって理解できるように工夫した構成になっている。

2 計画策定の背景・意義

（1）背景

人口減少社会の到来や急速な核家族化、都市化、少子高齢化など、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中で、様々な体験活動の不足が指摘されていることから、家庭・学校・地域が連携しながら、子どもたちに豊かな自然体験や社会体験などの機会と場を増やしていくことや子育ての楽しさや親としての責任を学ぶ家庭教育の充実が必要になってきている。

また、「団塊の世代」や高齢者を含めた世代に対する新たな施策も求められてきている。

さらには、急速に進むIT化の進展により、インターネット、スマートフォンのような携帯端末等の多様なメディアや情報に適切に対応し、絶えず新しい知識や技術を習得することも必要になってきている。

（2）意義

町民一人ひとりが自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その効果を適切に生かすことができるような施策と体制づくりが必要とされている。

今回の計画策定に当たり、平成21年度～24年度までの社会教育委員会による評価とグループアンケートによる町民の志向や関心などを踏まえながら、「当別町の生涯学習」の方向性を明らかにし、社会の変化に対応した自己のライフプランとして計画を策定した。

「第4次当別町生涯学習推進計画」

～当別に暮らす人にとっての生涯にわたる「まなび」の道しるべ～

第4次当別町生涯学習推進計画の体系図

当別町のめざす姿 自然を身近に感じ 活力に満ちた美しいまち 当別（第5次当別町総合計画）

当別町教育目標

- 強じんな精神とたくましい身体をつくる
- 科学的な知識や技能を身につける
- 豊かな情操の涵養と文化の創造につとめる
- 自主的な判断力と社会的徳性をつちかう
- 明るく豊かで住みよい郷土をささぐ

学校教育推進目標

- ひとりひとりを生かす創意ある学校経営
- 自ら考え創造する力を育てる学習指導
- 豊かな心で実践する力を育てる生徒指導
- 生命を尊ぶ態度と強い身体を育てる健康安全指導

社会教育推進目標

- 自ら学び活動し伝統を生かし当別二世紀をつくる町民の育成
- 明日を創造する青少年をたくましく育てる社会教育の推進
- 健康な心身をつくり明るいまちをつくる社会体育の推進
- 楽しさと生きがいをつくり育てる社会教育の推進

今後5年間の方向性

学校教育

幼保小中学校の効率的な連携から「一貫教育」への発展をめざす
 (目的) 知徳体のバランスのとれた児童・生徒の育成

社会教育

全ての発達段階に応じた学習プログラムの開発と円滑な実施をめざす
 (目的) 全ての町民が「幸せ」を感じることできる生涯学習社会の実現

家庭・子育て支援

「ふれあい・健康」
 を育む
 家庭教育の推進

地域社会・支援

「生きがい・学び」
 を育む
 社会教育の推進

学校支援

「生きる力」
 を育む
 学校教育の推進

★当別らしい家庭・地域社会・学校

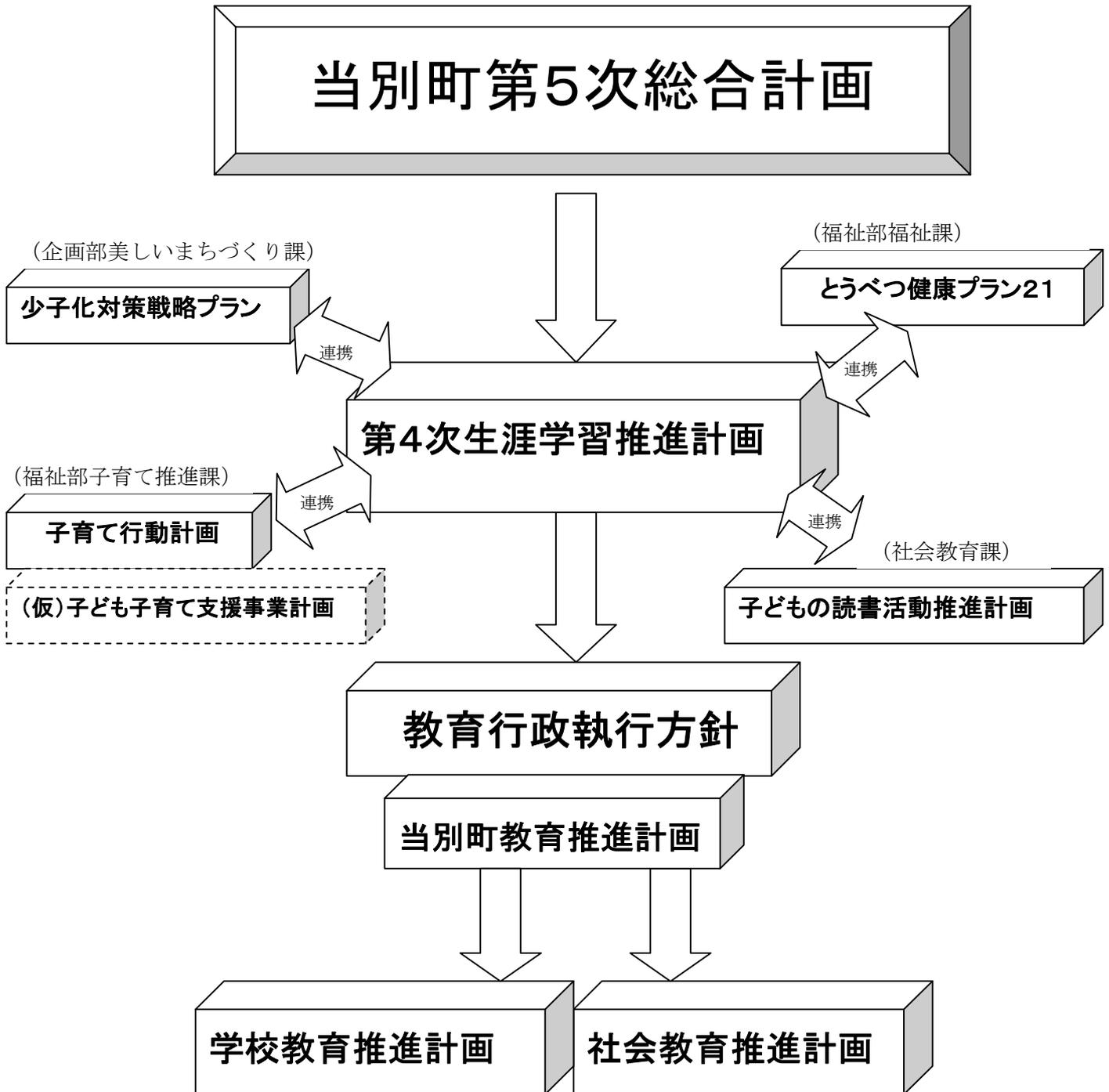
の連携を重視した「〇育^(※)」★

世代・地域の壁を越え、心豊かにともに支え合い、
 ふれあいにあふれるひとづくりへ

※「〇育」とは本計画書P8～記載している各期別での特徴的な教育の方法を表す言葉。

例：体験でふれあい、学び、育つ「体験育」など

第4次当別町生涯学習推進計画の位置づけ（他計画との関係）



生まれてから、人と人との「ふれあい」がスタートし「かかわりあい」へ

乳幼児期

0歳 ~ 6歳

平成25年度実施の主な事業

- ・ こころのふれあい推進事業 ブックスタート（絵本を手渡し、絵本を通して親子のつながりを深める）
- ・ 絵本の日事業（絵本の読み聞かせ）
- ・ 地域子育て活性化事業（親子の交流事業）
- ・ 読書週間、巡回図書
- ・ 親子エンジョイパーク（親子の運動遊び場開放）
- ・ 幼稚園就園奨励費補助事業
- ・ 幼稚園特別支援費補助事業

現況と課題

乳幼児期は、基本的な心身の発達とともに、人間としての基礎が形成される最も重要な時期である。この時期の子どもにとって、親や周囲の人とのかかわりが非常に大切であり、基本的な生活習慣など、子育てに対する親の学習が大変重要になる。

しかし、核家族化や地域の連帯感の希薄化などから、親自身が育児や家庭教育について学習する機会が少なくなり、子育てへの不安や悩みを抱える親が増えている。

また、親の生活時間が優先され、子ども本来の生活のリズムがつくりにくい家庭も見られるなど、家庭の教育力の低下が指摘されている。そして、少子化などの影響により、家庭内の兄弟姉妹同士での遊びや、地域内での集団遊びができない状況になっている。

そこで、親が乳幼児期の子どもとともに参加でき、成長に応じた家庭教育について学習したり、相談できる場を設け、家庭の教育力を高めることが求められている。

そのために、健全な心身の基礎を培い、家庭や地域でのふれあいや豊かな自然などを通して、情緒豊かな子どもたちを育成するための学習の機会や支援体制の充実が必要になる。

それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

- ★ 家庭教育、子育ての環境の充実を図るため、子どもたち一人ひとりを理解し、その特性にあった心身の発達を促す、基礎づくりを支援する。
- ★ 幼児の情操や創造性を育むとともに、幼稚園や保育所などの集団生活を通じて社会性を養う基礎づくりを支援し、小学校入学における保護者の不安感を取り除くため、幼小連携や育児相談の充実を支援する。

そのために大切なことは、

- (1) 家族関係の確立（親の役割、親子の信頼関係）
- (2) 安全で快適な環境づくり
- (3) 地域ぐるみで子どもを育てる環境の整備
- (4) 生活習慣の確立としつけの体得
- (5) 絵本・物語の読み聞かせ体験と読書習慣の啓発
- (6) 子ども同士の関わり合いの場の充実、小・中学生との交流の充実
- (7) 絵や音楽を通しての表現遊びの実践
- (8) 家庭教育の充実、親子の体験活動の充実
- (9) 子育て支援、町内の各子育てサークル等の団体活動の促進
- (10) 親子の健康増進
- (11) 自然体験・文化体験の機会の充実
- (12) 動・植物とのふれあい体験
- (13) 地域文化体験（昔話、祭りなど）
- (14) 地域活動への参加（社会生活のルールの体得）
- (15) 認定子ども園との連携
- (16) 家庭との連携による教育・保育相談機能の充実
- (17) 就学に向けた特別支援教育に関わる小学校との連携
- (18) 発達障がい等のある幼児の特別支援教育を行っている幼稚園・保育所への支援



(ブックスタート)



(絵本の読み聞かせ)

さらに発展させていきたいことは、

①子育て支援、町内の各子育てサークル等の団体活動の促進

子育て支援センターで実施する親子交流事業や子育て講座の内容充実を図るほか、子育てに関する必要情報を効果的に発信し、育児者が地域とかがわりを持ち子育てを楽しめる環境整備を推進する。

また、育児や子どもの成長など、福祉課、子育て推進課、子ども発達支援センター、青少年指導センターなど気軽に相談できる体制の充実を図る。

子育てサークルは、一緒に遊べる仲間、空間、時間を子どもに提供することができる。

そして、子育て中の親の仲間づくりができ、育児不安の解消につながる。さまざまな親子に接することで、親子の関わり方を学べ、自分の子育てに活かすことができる。そのような、各子育てサークル等の団体活動の促進を目指す。

②認定子ども園や保育所と連携し、当別町の幼児教育を推進する

子どもの成長にとっては、集団での遊びや直接のおよび間接的体験を通じて、感性、協調性、社会性など人間形成の基礎を培うことが必要である。認定子ども園や保育所などと連携や、子育てに必要な一定規模の子育て環境を提供し、当別町の幼児教育を推進する。また、小学校への就学に向けた、連携・サポートの充実を図る。

- 体験でふれあい、体験で学び、体験で育つ -

体験育

- ・認定こども園、保育所内行事の、日本の伝統的な実施工事を充実させる。（七夕祭り、餅つき、豆まき等からの発展）
- ・認定こども園、保育所から大学まで存在する町のメリットを生かし、さまざまな体験の機会を提供する。
- ・体験をとおして、「やさしさ」と「たくましさ」を育み、強い人に育てる。

- 本にふれあい、本に学び、本で育つ -

本育

- ・ブックスタートから始まる読み聞かせの普及促進
- ・認定こども園、保育所での読み聞かせの普及促進
- ・学習交流センター（児童コーナー室）の活用
- ・西当別コミュニティーセンター（図書室）の活用
- ・絵本交流会、ゆとりのキッズコーナー
- ・育児サークル・団体等の活用

- 交流でふれあい、交流で学び、交流で育つ -

交流育

- ・子どもとお年寄りの楽しいふれあいの場を創る。
（当別町ことぶき大学との連携、デイサービスとの連携）
- ・地域で子どもを育てるためにさまざまな体験の場を創る。
- ・小学・中学・高校や大学などと連携した交流の機会の充実

生きる力を支える基礎的・基本的な知識技能
(学力・心・身体)の確実な習得

青少年期 (小学校)

7 歳 ~ 12 歳

平成25年度の主な事業

【学校教育】

〈学力〉

- ・ チームティーチングによる複数教師による授業 (TT 授業)。習熟度別クラス分けによる少人数授業
 - ・ 英会話指導助手配置事業 (国際理解教育)
 - ・ 社会見学や職業体験学習の実施 (キャリア教育)
 - ・ 外部講師や地域ボランティアによる特色ある学校教育
 - ・ 豊かな心を育む読書活動の推進
 - ・ 長期休業における補充的な学習支援
 - ・ 基礎・基本の定着のための全校的な朝読書・朝ドリル・朝自習の実施
 - ・ 北海道教育大札幌校との連携による、スクールアシスタントティーチャー活用事業
- 〈生活・道徳〉
- ・ 生徒指導を柱にした小中連携事業
 - ・ 基本的な生活習慣の確立を目指した「早寝・早起き・朝ごはん運動」の推進
 - ・ 「命の大切さ」「生きる力」「人権教室」「異学年交流」など、個人の尊重、命の尊厳を学ぶ学習
 - ・ 「緑の少年団活動」などのボランティア活動の推進
- 〈健康・安全〉
- ・ 心の変化に応じたスクールカウンセラー連携事業
 - ・ 不登校への対応の適応指導教室支援
 - ・ アンケート等を通して個に応じた成長への支援
 - ・ フッ化物洗口事業

【社会教育】

- ・ 父子の交流事業
- ・ 親塾
- ・ 通学合宿 (小学校5・6年生が6日間、集団宿泊生活をしながら学校に通学)
- ・ 少年の意見発表会 (小・中・高校生を対象の意見発表会)
- ・ 小中高大連携TOWNミーティング
- ・ 子ども会育成連合会 (青少年活動の活性化やリーダー養成)
- ・ 当別学講座 (北海道医療大学との連携セミナー)
- ・ ジュニアスポーツチャレンジ (スポーツの実技体験)
- ・ 青少年スポーツの時間 (体育館施設の無料開放)

- ・ ジュニアスイミングスクール（水泳の基礎・基本を学ぶ）
- ・ 読書週間、巡回図書（学習交流センター・西コミセン図書室との連携）
- ・ 家庭教育の手引きの活用
- ・ 「家読」の推奨

現況と課題

小学校期は、生活習慣や運動習慣を形成する時期であるとともに、仲間意識が育ち、思いやる心や他者を尊重する心を培うなど、豊かな人間性や社会性を醸成する時期である。また、自分の良さや可能性を実感し、自信や自己肯定感を深めながら、併せて自己を律する感覚をしっかりと育て、夢や希望に向かってチャレンジし、目標をもって取り組む時期でもあります。いわゆる「生きる力」の基礎を養う時期である。

したがって、学校教育においては、「生きる力」を育むため、「学力・体力の向上」そして「規範意識や思いやりの心」の育みを一層充実することが期待されており、そのため学校経営や学習指導方法の工夫・改善、条件整備などが求められている。また、確かな学力を培うために、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、学習習慣を身につけ、考え、判断するなどの活用能力を育むための条件整備が必要とされている。

一方、少子化による児童生徒の減少が進んでおり、学校小規模化によって学校教育・学校経営への弊害などが課題としてあり、統廃合を含め学校規模の適正化や適正な学校配置を検討する必要がある。さらに近隣市町村との差別化による特色ある学校づくりとして、一貫教育の検討を行う。

それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

- ①「知・徳・体」のバランスのとれた人材の基礎となる力の育成
- ②基礎・基本の確実な定着
- ③低学年からの外国語活動や異校種間連携など特色のある教育の推進
- ④自己理解にはじまるキャリア教育※の推進
- ⑤適正な学校配置と一貫教育の検討・推進

※キャリア教育

キャリア教育とは、経験を活かして、現在や将来を見据えることなどを主眼として行われる教育のことである。学校教育ではキャリア教育において身につけさせる力として主に（1）他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同して物事に取り組む力を育成すること。（2）学ぶこと・働くことの意義や役割およびその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす力を育成すること。（3）夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する力を育成すること。（4）自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組む力を育成することなどを挙げている。

そのために大切なことは、

〈学力〉

- (1) 基礎学力の定着のための学習方法・学習習慣の確立
- (2) 基礎体力の向上
- (3) 外国語活動の充実
- (4) 一貫教育を念頭おいた異校種間連携・交流の促進
- (5) 福祉や医療などの関係機関などと連携した特別支援教育の充実
- (6) 学校教育環境の整備（学校図書館の機能強化、地域環境や人材などの教育資源、施設改修）
- (7) 関係機関との連携を図った教育相談体制づくり

〈生活・道徳〉

- (8) 情操教育に大きな役割を果たす読書活動の推進、コミュニケーション能力の向上
- (9) 規律ある生活習慣の確立に向けた指導の充実
- (10) 思いやりの心や規範意識の育成、礼儀の体得、命の大切さ、物の大切さの理解
- (11) 友だち・仲間づくりや思いやりの心や集団生活のルールの体得
- (12) 家族間での会話、家族とのコミュニケーションの確立、家庭内での役割分担の確立
- (13) ボランティア活動の意義を理解、親子を含めた体験学習の充実

〈健康・安全〉

- (14) 望ましい食習慣や食材と生産の結びつきなどの地産地消を取り入れた食育の充実と食物アレルギーの防止、対応
- (15) 登下校時の安全対策や施設の安全確保、交通安全マナーの徹底
- (16) 安全教育（防災教育、防犯教室、交通安全教室、薬物乱用防止教室）の徹底
- (17) 環境問題の意識化と実践

〈キャリア教育〉

- (18) 自己及び他者の積極的関心の形成・発展
- (19) 身のまわりの仕事や環境への関心意欲の向上
- (20) 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
- (21) 勤労を重んじ、目標に向かって努力する態度の育成



(通学合宿)

さらに発展させていきたいことは、

学習育

- 学ぶことの楽しさを知り、意欲的に学び、学びの中で育つ -

- ・ T・T授業や習熟度別学習のさらなる導入
- ・ 一人ひとりのつまづきに対応した個別指導の充実
- ・ 保護者との連携による家庭学習習慣の定着
- ・ 「早寝早起き朝ごはん」運動などによる生活習慣の改善
- ・ A L TとのT・Tによる外国語活動の時間数増
- ・ 地域人材や大学生ボランティアを活用した学校支援
- ・ 教師力を高める教職員研修の充実
- ・ 教育環境の整備

徳育

- 道徳でふれあい、道徳に学び、道徳にて育つ -

- ・ 人を思いやり、命を大切にする教育の推進
- ・ 他者への積極的関心の形成
- ・ 地域で子どもを守り育てる環境づくり

活動育

- 活動でふれあい、活動で学び、活動で育つ -

- ・ 学校全体で取り組む基礎体力づくり
- ・ コーディネーショントレーニング※による体力づくり
- ・ 社会教育関連行事への積極的参加

※ コーディネーショントレーニング

コーディネーショントレーニングとは、身体と脳・神経系統のバランスの良い発育を促し、運動の習得効果を高めるためのトレーニング法で、「運動における一連の過程」を円滑に、正確に行う能力を向上させるためのトレーニングである。



(新春こどもカルタ大会)



(小中高大生TOWNミーティング)

自立して社会で生き抜く基礎となる「確かな学力」「豊かな心」
「健やかな身体」の調和のとれた育成
(学力・心・身体)の確実な習得

青少年期 (中学校)

13歳 ~ 15歳

平成25年度の主な事業

【学校教育】

〈学力〉

- ・ チームティーチングによる複数教師による授業（TT 授業）。習熟度別クラス分けによる少人数授業
 - ・ 英会話指導助手配置事業（外国語教育）と国際交流の充実
 - ・ 社会見学や職業体験学習の実施（キャリア教育）
 - ・ 外部講師や地域ボランティアによる特色ある学校教育
 - ・ 豊かな心を育む読書活動の推進
 - ・ 長期休業における補足的な学習支援
 - ・ 基礎・基本の定着のための全校的な朝読書・朝自習の実施
 - ・ 北海道教育大札幌校との連携による、スクールアシスタントティーチャー活用事業
- ##### 〈生活・道徳〉
- ・ 基本的な生活習慣の確立を目指した「早寝・早起き・朝ごはん運動」の推進
 - ・ 「命の大切さ」「生きる力」「人権教室」「異学年交流」など、個人の尊重、命の尊厳を学ぶ学習
 - ・ 生徒が主体的に取り組むボランティア活動の推進
- ##### 〈健康・安全〉
- ・ 心の成長と心の在り方に関わる様々な問題を解決へ導くスクールカウンセラーや適応指導教室の活用、アンケート調査等を通して個に応じた成長への支援の推進

【社会教育】

- ・ 親塾
- ・ 通学合宿へのジュニアリーダーの支援
- ・ 少年の意見発表会（小・中・高校生を対象の意見発表会）
- ・ 小中高大連携 TOWN ミーティング
- ・ 子ども会育成連合会（青少年活動の活性化やリーダー養成）
- ・ 当別学講座（北海道医療大学との連携セミナー）
- ・ ジュニアスポーツチャレンジ（スポーツの実技体験）
- ・ 青少年スポーツの時間（体育館施設の無料開放）
- ・ ジュニアスイミングスクール（水泳の基礎・基本を学ぶ）
- ・ 読書週間、巡回図書（学習交流センター・西コミセン図書室との連携）
- ・ 家庭教育の手引きの活用
- ・ 「家読」の推奨

現況と課題

中学校期は、体験活動を通して、望ましい職業観や勤労観を育むとともに、ボランティア活動にも意欲を持ち、社会に貢献しようと前向きに行動する時期でもある。また、自我の発達がめざましく、自主性や独立性の欲求が高まり、自己の存在や価値を問いかける一方で、第二反抗期を迎えながら、自分らしさを確立する時期でもあります。このような時期の人づくりは、学校のみならず、家庭や地域がそれぞれの役割を自覚しながら、連携・協力し合って取り組んでいくことが重要になる。

また、子ども自身が意欲を持続し、目標をもって主体的に学んだり、体験を通して自己を形成したりすることも大切である。そこで、さまざまな体験や人との交流を通じて子どもの「生きる力」を育む環境づくりが必要となっている。

小学校や中学校の教育課程は、生涯学習を形成する基礎となっており、基礎学力の定着とともに、将来の夢や希望を実現し、次代を担う人材を育成するため、さらなる学力の向上が必要であり、学校だけでなく家庭と地域が一体となった取り組みが必要となっている。

近年、情報ネットワークの普及にともない、青少年の犯罪や非行が低年齢化するとともに、犯罪に巻き込まれることが問題となっている。メールやSNS※などによるいじめや不登校問題、不審者の出没など、子どもを取り巻く環境は複雑化している。青少年の健全育成、児童生徒の安全確保のために、家庭・学校・地域・行政が一体となり、青少年を守り育てる取り組みが必要である。

一方、少子化による児童生徒の減少が進んでおり、学校小規模化によって学校教育・学校経営への弊害などが課題としてあり、統廃合を含め学校規模の適正化や適正な学校配置を検討する必要がある。さらに近隣市町村との差別化による特色ある学校づくりとして、一貫教育の検討を行う。

それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

小学校での学びを基本とした教育の推進

- ① 小学校で培った「知・徳・体」の基礎となる力の発展
- ② 自ら進んで学習や行事に取り組む積極的な姿勢の育成
- ③ 異校種間の連携
- ④ 社会的・職業的な自立に向けたキャリア教育の推進
- ⑤ 適正な学校配置と一貫教育の検討

※ 「SNS」

ソーシャル・ネットワーキング・サービス(Social Networking Service の略)、インターネット上で構築するサービスのことで、代表的なものとして、日本では mixi、GREE、Mobage、Ameba、世界では Facebook、Twitter、Google+、Line などがある。これらのインターネットサービスにより、個人への誹謗中傷やいじめ、また個人情報の流布による犯罪被害が増えている。

そのために大切なことは、

〈学力〉

- (1) 小学校の学習に立脚した発展的な学力の形成
- (2) 自己の将来を見据えた積極的な学習意欲の育成
- (3) 小学校の体力形成に立脚した体力の強化
- (4) スムースな接続や学力向上を意識した異校種間連携・交流の促進
- (5) 地域の教育資源の活用
- (6) 学校教育環境の整備（学校図書館の機能強化、地域環境や人材などの教育資源、施設改修）

〈生活・道徳〉

- (7) 小学校の読書指導に立脚した読書活動の推進
- (8) 自己の進路目標を見据えた生活習慣の確立
- (9) 社会を構成する一員としての自覚を促す規範意識
- (10) 社会とボランティア活動についての関わりの理解と積極的なボランティア活動の推進

〈健康・安全〉

- (11) 望ましい食習慣形成のための食育の充実
- (12) 地域社会の安全に寄与できる安全教育の充実
- (13) グローバルな視点で環境問題を考える環境教育の充実

〈キャリア教育〉

- (14) 自己理解と自己有用感を構築させる指導の充実
- (15) 主体的に進路を選択する能力の育成
- (16) 興味関心に基づく職業観・勤労観の形成
- (17) 進路計画の立案と職業体験活動の充実



(ジュニアリーダーの活動)



(少年の意見発表会)

さらに発展させていきたいことは、

- 学ぶことの楽しさを知り、意欲的に学び、学びの中で育つ -

学習育

- ・進路を意識した自主的な学びの促進
- ・T・Tや習熟度別授業の導入などの授業改善
- ・自己理解に基づく進路実現に向けた意欲の醸成
- ・日常の宿題や週末課題の活用による家庭学習習慣の形成
- ・地域の教育資源やボランティアを活用した個別指導などの学校支援の充実
- ・教師力を高める教職員研修の推進
- ・教育環境の整備

- 道徳でふれあい、道徳に学び、道徳にて育つ -

徳育

- ・読書推進計画に基づく読書活動の推進
- ・体験的な学習や活動を通じた自己理解の推進
- ・自己と社会との関わりを深める学習の推進
- ・情報モラル教育の推進

- 活動でふれあい、活動で学び、活動で育つ -

活動育

- ・全校体制による基礎体力向上やコーディネーショントレーニング※の活用
- ・部活動や地域行事への積極的参加
- ・集団的活動や行事を通じた人間性の育成

- リーダーとしてのふれあい、リーダーとしての学び、リーダーとして育つ -

リーダー育

- ・リーダー研修の開催
- ・他市町村や他地域との交流や、北海道主催事業、石狩管内事業への参加によるリーダーシップの育成
- ・リーダーとして小学生と関わる機会の充実

人生観、社会観の探求、自己の確立、社会的に責任のある態度・行動の習得を

青少年期(高等学校など)

16歳 ~ 19歳

平成25年度実施の主な事業

- ・ 少年の意見発表会（小・中・高校生を対象の意見発表会）
- ・ 小中高大連携TOWNミーティング（小中高大の児童生徒の交流）
- ・ ジュニアリーダーサークルEZO' Jr（青少年活動の活性化やリーダー養成）
- ・ 青少年スポーツの時間（体育館施設の無料開放）

現況と課題

青少年期（高等学校など）は、あらゆる教育活動を通じて、幅広い選択肢の中から自ら考え、自ら判断できる人間を育む教育を一層充実する必要がある。さらには、生徒一人ひとりが社会的に自立する過程を支援する教育が極めて重要であり、生徒個々の自己意識や価値観を育て、個性を伸ばすことのできる多様で柔軟な仕組づくりも必要となる。また、国際化、情報化の進行、若者の就業観の変化など、社会経済の状況の変化に対応した教育も求められている。将来的には、まちづくりの担い手として活躍することも期待されており、積極的に地域活動に関わるような機会や場づくりも重要である。

それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

- ★ 生きる知恵につながる確かな学力を育み、自立した生き方を支える教養の習得への支援
- ★ 望ましい職業観や勤労観の育みから、自発的な社会参加の準備を支援
- ★ 将来のまちづくりの担い手となるための研修機会等の充実

そのために大切なことは、

- (1) 親と子の精神的な自立
- (2) 自己を認識し、自己コントロールできる能力の養成
- (3) 職業に関する専門的な知識・技術の習得
- (4) 規律ある生活習慣の確立に向けた指導の充実
- (5) ジュニアリーダーの養成や研修の充実
- (6) 文化・スポーツ活動への参加
- (7) 国際理解学習の促進
- (8) ボランティア活動の意義の理解とその体験

さらに発展させていきたいことは、

- ① 高校生の持っている学習意欲や能力を地域に生かすため、地域活動や社会参加を促進する。
- ② 地域社会で異世代との交流機会の提供を進める。

- 地域社会とふれあい、公共心を学び、地域社会で育つ -

公共育

- ・ 地域の活動に積極的に参画し、地域社会の一員としての社会的なマナーや道徳心を養う。

- ボランティアにふれあい、ボランティアを学び、ボランティアで育つ -

ボランティア育

- ・ 町内関係機関等と連携し、ボランティアなどの自発的な奉仕・社会体験活動の機会の拡充に努める。



(小中高大生TOWNミーティング)



(ジュニアリーダーの活動)

成人期

20歳 ~ 60歳

平成25年度実施の主な事業

- ・ 学校支援地域本部事業（地域ボランティアによる学校支援）
- ・ 子育てを考えるつどい（子育てに関する講演会等の開催）
- ・ 父親を対象とした子育て講座（父親の家庭教育参加を推進する講座）
- ・ 文化協会・文化祭（文化芸術に自主的に参加活動できる団体活動）
- ・ 体育協会・町民体育祭（町民を対象とした各競技の活動）
- ・ 親子エンジョイパーク（親子の運動遊びの場所と用具の提供）
- ・ フィットネスカレッジ（体力づくり健康増進のためのトレーニングメニュー作成・プログラム提供）
- ・ 町民スポーツの日・青少年スポーツの時間（体育館施設の無料開放）
- ・ 当別学講座（北海道医療大学との連携セミナー）

現況と課題

生涯において最も長く、人生の中心となる時期であり、それぞれのライフスタイルを持ち、責任と信頼を得て、家庭職場社会と幅広い活動を行う時期である。

成人期の人たちが、自分の人生を豊かで健康なものにするために、仕事などにも役立つ知識や技術を身につけたり、自己の向上を図る様々な学習機会の充実が求められる。

また、社会の一員として、さらには指導的な立場で、地域の学習活動に参加し、地域を見つめ直し、関わりを深めながら、地域の発展や活性化につながる学習や活動を生み出していくことが必要である。

それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

- ★ 望ましい人間関係をつくるとともに、生活を充実させるための自己実現を支援
- ★ 家庭との豊かな家庭生活と地域と連携した子育てを支援
- ★ 生活を充実させるための自主的な学習活動の推進や個々の能力や技術を地域で生かす環境の整備の支援
- ★ 一人ひとりが心身豊かに相互に支え合い、自立性の高い地域をつくる意識向上の支援
- ★ 子どもの考えや気持ちを理解し、地域で子どもを守り育てる地域の教育力向上の支援

そのために大切なことは、

- (1) 自立した生活と社会との関わりを大切にする。
- (2) 趣味・特技を活かすサークル活動の充実
- (3) コミュニティーにおける地域活動への積極的な参加
- (4) ボランティア活動や社会福祉への自主参加
- (5) 学校支援やPTA活動の理解と実践
- (6) 防犯・防火・防災活動への参加と交通安全の取り組み
- (7) 妊娠・出産・育児・教育への適切な対応
- (8) 心身の健康保持（心の健康や生活習慣病の予防）
- (9) 青少年の健全育成を推進する全町的な取り組み
- (10) 心身の健康保持（心の健康や生活習慣病の予防、健診等の促進）
- (11) ふるさと（とうべつ）の見直しと再発見
- (12) 伝統芸能の継承と地域文化・歴史の確認・保存
- (13) 安全な生活、防犯・防火・防災活動（地域活動、巡回活動等の協力等）の実践
- (14) 後継者の育成、習得した専門的知識・技能の社会への還元
- (15) 町民のニーズに対応した町民自主企画講座の活用
- (16) 地域人材を活用した人材バンク登録制度（とうべつ知恵袋）の拡大

さらに発展させていきたいことは、

- ① コミュニティーにおける地域活動への積極的な参加
 - ・子ども会育成連合会の支援活動、団体・町内会活動等への支援
- ② 妊娠・出産・育児・教育への適切な対応
 - ・学校や地域と連携した子育て支援事業の開催
 - ・家庭における父親の参画の啓発、家族間の交流を図る。
- ③ 心身の健康保持（心の健康や生活習慣病の予防）
（フィットネスカレッジ）
 - ・「自らの健康は自らが守る」という認識と自覚を高める。
 - ・運動教室、生活習慣病を予防するための栄養教室、健康相談の開催
- ④ 地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進
 - ・当別町学校支援地域本部を主体として、地域教育協議会議の開催、学校支援ボランティア募集、地域コーディネーターの配置、人材バンクの活用を図る。
- ⑤ 安全な生活、防犯・防火・防災活動
（地域活動、巡回活動等の協力）の実践
 - ・「当別」朝の15分間運動の周知、促進



（フィットネスカレッジ）

家庭や地域と積極的に関わり、趣味特技を磨き、生きがいを

熟年期

61歳以上

平成25年度実施の主な事業

- ・ 学校支援地域本部事業（地域ボランティアによる学校支援）
- ・ 各種交流事業への支援
- ・ 高齢者学園「ことぶき大学」（高齢者による生きがいづくりの学習機会）
- ・ 当別学講座（北海道医療大学との連携セミナー）
- ・ 女性団体・女性のつどい（女性の自立を促進するための団体活動）
- ・ 文化協会・文化祭（文化芸術に自主的に参加活動できる団体活動）
- ・ 体育協会・町民体育祭（町民を対象とした各競技の活動）
- ・ フィットネスカレッジ（体力づくり健康増進のためのトレーニングメニュー作成・プログラム提供）
- ・ 町民スポーツの日・青少年スポーツの時間（体育館施設の無料開放）

現況と課題

熟年期は、退職などにより、新たな人生を歩み始める人たちは、時間の余裕があり、自らの向上とともに多くの人との交流の機会を増やす中で、仲間づくりを進め、社会参加を積極的に行い、自らの豊かな知識や経験を活かす時期でもある。

高齢期の人たちが元気に年齢を重ねていくためには、健康についての認識を深め、健康を保持することが求められている。

また、地域社会の貴重な財産でもある高齢期の人々の豊富な知識や経験をまちづくりに活かし、次の世代へ受け継いでいくことのできる体制づくりも必要になる。

それを受けて、これからの推進すべき方向性は、

- ★ 健康の保持・増進
- ★ 生きがいづくりへの支援
- ★ これまで蓄積された知識や経験を活かしたまちづくりへの支援

そのために大切なことは、

- (1) ゆとりやうるおい等、心の豊かさにつながる芸術・文化に親しむ活動
- (2) 福祉制度の理解と活用
- (3) 同世代・異世代・地域間の交流の活発化促進
- (4) 生涯スポーツや健康増進活動の充実
- (5) 交通ルールの再認識、防犯・防火・防災活動の実践協力
- (6) 生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元
- (7) 町民のニーズに対応した町民自主企画講座の活用
- (8) 地域人材を活用した人材バンク登録制度（とうべつ知恵袋）の拡大
- (9) 学校支援地域本部事業などのボランティア活動の充実
- (10) 地域の歴史や文化の伝承
- (11) 後継者の育成、習得した専門的知識・技能の社会への還元

さらに発展させていきたいことは、

- ①生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元
 - ・当別町子ども会育成連合会「新春子どもカルタ大会」支援
 - ・地域子ども教室（昔あそび、囲碁教育、折り紙教育等）支援
- ②地域の歴史や文化の伝承
 - ・歴史研究専門員や歴史ボランティアなどの積極的な活用
- ③地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進
 - ・当別町学校支援地域本部を主体として、地域教育協議会議の開催、学校支援ボランティア募集、地域コーディネーターの配置、人材バンクの活用を図る。
- ④コーディネーショントレーニングの普及啓発



（ことぶき大学）



（当別学講座）

一体型による一貫教育の検討

現況と課題

全国的な教育課題として、各教育(年齢)段階で習得すべき学力、体力、道徳などが不十分なまま次の段階に進まざるを得ない子供たちが存在している状況がある。

その状況を克服している児童生徒もいますが、授業内容の理解が不十分だったり、不登校や、高校生においては退学する者、道を誤る生徒もいるのが現状である。

このことは平成25年度に完全実施された高等学校学習指導要領に、中学校での学びを復習させる、いわゆる「学び直し」が明記されたことでも、その深刻さが全国的なものであるということがわかる。

全国の統計では小学校入学時(316人に1人)、あるいは小学校から中学校に入学する段階(36人に1人)で学校生活に不適応を示す児童生徒も依然として多く、また、一部の高校では保護者の教育力に課題があったり、退学を余儀なくされる生徒も少なくないといった実態がある。

当別町においても通常学級に通う児童生徒のうち、授業内容の理解不足や困り感のある児童生徒数は小・中学校共に約5%存在しており、また何らかの理由により長期欠席する児童生徒も高学年になるにつれて多くなる傾向が見える。

一方、学校設置者である地方自治体の財政力、少子高齢化も深刻な状況であり、とりわけ本町については出生率の低下が深刻となっている。

そのために大切なことは、

本町では、これらの諸課題を解決し、日本の未来を背負う「知・徳・体」のバランスのとれた子供を育成するため、幼保教育の充実、幼保小中連携及び一体型一貫教育の導入を検討する。

一貫教育の将来像

1 一貫教育で目指す人間像

社会を背負う、世界にも通用する「知・徳・体」を備えた人

2 一貫教育で目指す学校像 ～徹底した学力向上を図る学校～

- (1) 小学校へのスムーズな移行が可能となる教育を行う
- (2) その年代で付けるべき力を全員に付けさせることのできる学校
- (3) ずれや逆転のないスムーズな学年移行のできる学校
- (4) 地域や保護者の思いが生かされ共に歩める学校

3 一貫教育で付けさせたい力

- (1) 基礎基本と発展的学力、自ら学ぶ意欲
- (2) 豊かな人間性
- (3) 健全な心身
- (4) コミュニケーション能力
- (5) プレゼンテーション能力

4 特色ある教育

- (1) 6-3制などの従来の枠にとらわれない教育課程編成
- (2) 外国語学習の推進
- (3) 習熟度別など個に応じた指導の推進
- (4) スウェーデンとの交流事業の推進
- (5) 北海道医療大学と連携した福祉教育の推進

5 当別町で一貫教育を行うメリット

- (1) 学びの連続性を保ち、幼児から小学校、中学校などへの途切れない教育が可能となる。
- (2) 異年齢集団での生活を通し、お互いに刺激しあう環境ができる。
・小1プロブレム※1、中1ギャップ※2の解消に繋がり、不登校の解消に繋げることができる。
- (3) 異校種の教員が一堂に会することにより、互いを刺激しあい、理解を深め、併せて指導力の向上も図ることができる。
- (4) 複式学級の解消。
- (5) 学校が一つになることにより学校運営費等、財政の合理的な運用が可能となる。
- (6) 高等教育機関との連携が容易にできる。

6 当別町で一貫教育を行うことのデメリットとその対策

- (1) 学校施設の新築による多額な財政負担→補助金等の活用
- (2) 長い期間であるため、目標設定が難しい→期ごとのオリエンテーションを丁寧に行うことにより解消を図る。
- (3) 同じ集団での生活のため、人間関係の構築に難しさがある→すべての子どもが等しく学習の機会が与えられるよう、状況に応じてきめ細かい対応に努めるとともに、部活動等による他校との交流、自然体験などを通して解消を図る。

※1小1プロブレム

小1プロブレムとは小学校に入学したばかりの児童が、授業中に座っていられなかったり、集団行動がとれなかったりといった状態が続くこと。生活の中心が「遊び」から「学び」に変わるギャップの大きさが要因の一つとされる。

※2中1ギャップ

中1ギャップとは小学校から中学校に進学したときに、学習内容や生活リズムの変化になじむことができず、いじめが増加したり不登校になったりする現象。

家庭教育の支援

現況と課題

家庭教育は、子どもの基本的な生活習慣・社会生活を営んでいく上での基本的なルールやマナーなどを身につける役割を担っている。

しかし、核家族化や少子化、都市化による地域連携の意識の希薄等により子育て家庭の孤立化などから子育てに負担や不安を感じる保護者が増加している。このようなことから、家庭の教育力の低下が深刻な課題となっている。

また、特に乳幼児期は保護者の生活習慣の影響を大きく受け、その発達段階にふさわしい生活や経験を通して人間形成の基礎を築き育てることが求められている。

子育て家庭への支援として、学習機会の提供や気軽に相談できるような体制等を充実させていくとともに子育てサークル等、保護者同士が情報交換できる場や保護者だけでなく子ども同士が気軽に集える場が必要である。

これから推進すべき方向性

- ★ 乳幼児期を子どもの成長過程の中で最も重要で基礎的な段階として捉え、乳幼児や保護者を対象とした支援と学習機会の充実を図る。
- ★ 児童・生徒の心身の発達段階に応じた家庭教育に関する学習機会を提供し、家庭教育の重要性についての認識を高めるとともに親子のふれあいを深める体験活動や世代間での交流を図り、地域や家庭の教育力向上を支援する。
- ★ 父親の子育てや家庭教育への主体的な参加を促すため、父親と子どもとともに学ぶ機会を提供する。
- ★ 「家庭教育の手引き」、町広報誌、町ホームページ等を活用するなど、子育て支援情報や家庭教育に関する学習情報の提供を行うとともに各種相談事業の充実を図る。
- ★ 社会教育施設だけでなく、総合保健福祉センター（ゆとろ）等と連携しながら子育てサークル等、保護者同士や子ども同士が気軽に集える場の提供に努める。

生涯学習の環境整備

1 生涯学習施設の整備

社会教育施設は、生涯学習を推進する上で欠かすことのできないものであり、多様化する学習ニーズに対応できるようにしなければならない。

特に、図書館機能を有する施設については、町民の日常的な読書から調査・研究まで、町民の求める資料を整備し、生涯学習の推進を支援するための中核的な施設にならなければならない。今後、図書館の設置を含めて町民の意見を聞きながら検討していくこととする。

また、他の社会教育施設も生涯学習における重要な拠点として果たす役割が大きく、その特性に応じた機能を整備し、有効な活用を推進する。

2 野外活動施設の活用

野外活動の場としては、スポーツ施設、公園の他、道民の森などがあり、町民はこれらの施設を利用して、様々なスポーツ・学習活動を行っている。

今後とも生涯学習の場として有効に活用されるように利用の促進を図る。

3 学校開放の促進

学校施設の開放の現状は、主としてスポーツ活動の場として休日、夜間、放課後に地域の団体を中心に開放されている。

今後とも学校の教育活動に支障がない範囲で地域の生涯スポーツ施設として活用されるように整備充実を図る。

4 指導者の発掘・活用

生涯学習を促進するためには適切な指導を行う人材の発掘とその有効活用を図る必要がある。

そのために様々な学習活動を支援する指導者を確保するため、地域のボラン

ティアなどの発掘を行うとともに、登録を行う健康福祉出前講座なども含めた「人材バンク」や学校支援地域本部事業※での活用を図る。

5 生涯学習情報の収集・提供

生涯学習を進めるにあたっては、各種学習情報を収集し、町民が求める学習情報を提供するシステムを整備することが重要である。

そのために教育委員会に留まらず他部局や各種機関が持っている学習、スポーツなどに関する情報を共有しながら、ホームページや広報誌や各種情報誌などの紙媒体をとおして情報提供に努める。

6 学習相談体制の整備

学習相談は、主体的な学習活動を支援する上で、不可欠なものであり、学習システムの整備とともに町民への周知啓発を行いながら様々な学習者に対応できるように相談体制を整備する必要がある。

※ 当別町学校支援地域本部事業

当別町学校支援地域本部事業とは、

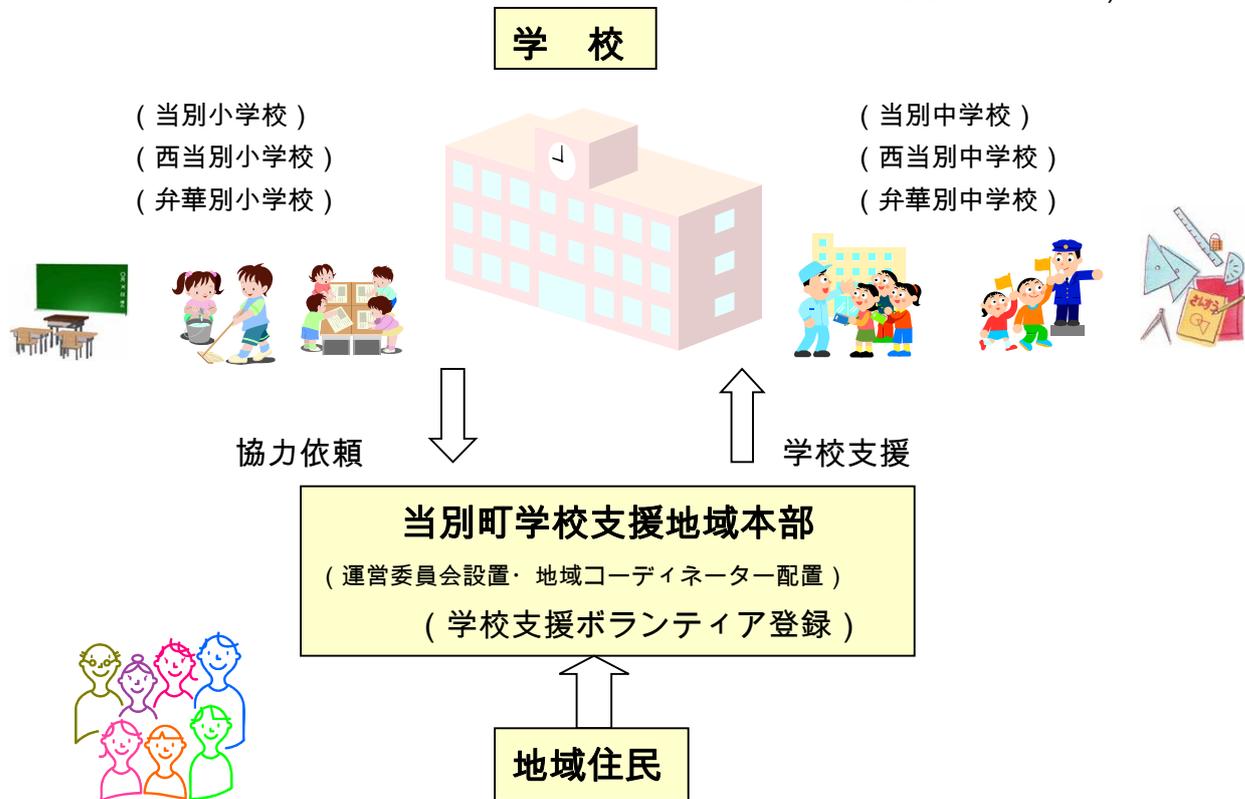
地域の方々が資格や特技・趣味等を生かしたり、子どものために何か支援したい気持ちを持っている方々が学校の活動を支援していくことにより、学校教育の一層の多様化・活性化を図ることを目的とした“地域につくられた学校の応援団”事業です。学校の求めと地域の力をマッチングしてより効果的な学校支援を行うことにより教育活動のますますの充実を目指す。

社会の現況と背景

- ・ 社会の複雑多様化
- ・ 子ども一人一人に対するきめ細やかな指導の必要性
- ・ 家庭や地域の教育力低下

これからの当別町学校支援活動の方向性

学校支援ボランティア活動及び内容については、支援する地域の方々が無理なくできるときにできることを学校の依頼に基づき実施することにより、継続的持続可能な取り組みとして推進する。
(学習活動支援、部活動指導支援、環境整備、登下校安全活動支援、学校行事運営支援等)



学校での目指す効果

(教育活動の充実)

- ・ 学校支援ボランティアのもつ専門性を生かすことによる学習意欲の向上
- ・ 地域住民の学校理解
- ・ 子どもと向き合う時間の確保に

学校・地域の共通の願い

未来を担う子ども達
をすこやかに育む

- ・ 子ども達の学びを深める
- ・ 思いやりや感謝の気持ちを育む
- ・ 地域の人達に支えられ守られていることや社会の一員としての自覚を促す

地域での目指す効果

(地域教育力の向上)

- ・ 自らの経験や学習成果を発揮することで、生きがいづくりと自己実現につながる
- ・ 社会参加活動の場がえられる
- ・ 地域社会の活性化

評価・検証について

Why?

なぜ、評価が必要なのか？重要なのか？

- ① 5ヶ年計画であることを考えると、1年ごとの検証・見直しが必要である。
- ② 一般的に前例踏襲という風潮がある中で、今後よりよい成果を生むためのステップとして、分析・判断などの評価がとても重要である。
- ③ 行政側のみが単独で行う評価ではなく、第三者評価が入ることにより、評価がより明確化される。ただし、誰もが関わりやすい評価の仕方・検証を重視

Who?

だれが、評価をするのか？

- ① 事業を行った職員、機関、団体あるいは担当者 = 自己評価
- ② 年度毎に社会教育委員による評価
- ③ 第三者による外部評価 (参加者や学識経験者など)

What?

なにを、評価するのか？

- ① 生涯学習推進計画の各期<さらに発展させていきたいこと>を中心に評価・検証する。
- ② 各事業の結果 (各事業の参加者数や参加アンケート等を参考) を評価する。 ※1
- ③ 各事業の成果や効果 (各事業における波及効果等を参考) を評価する。 ※2

When?

いつ、評価するのか？

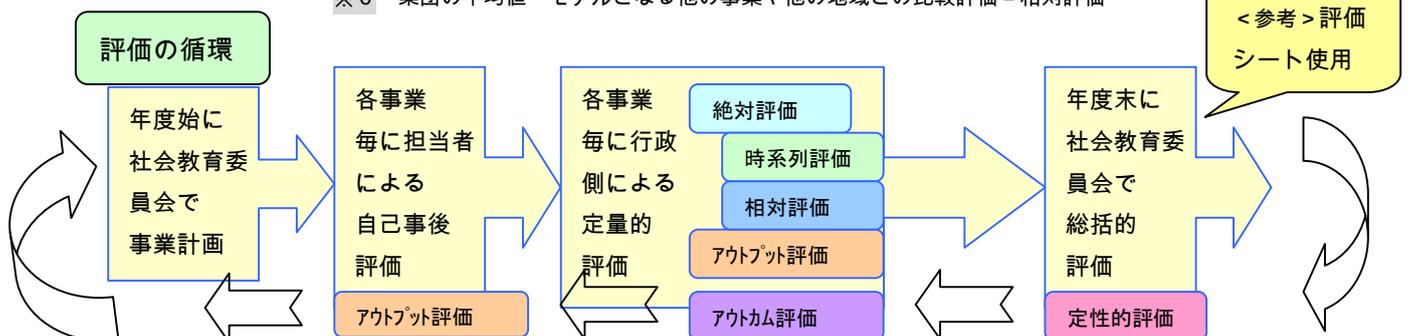
- ① 各事業終了後に事後評価する。
- ② 総括的評価を年度末の社会教育委員会にて行う。
- ③ 結果を、教育委員会HPに掲載し、新年度に生かす方策を検討する。

How?

どのように、評価するのか？

- ① <参考> 評価シート (事業ごとに作成) を使って、質・量 (※3) をとらえての意見交換をし、評価・検証する。
- ② 解釈の基準 (3つの評価を前提にしながらの、総合的な意見交換を行う。)
 - (1) 一定の基準を設けて、それに達しているかどうかの評価 ※4
 - (2) 過去から同じインターバルで測定した結果から達成度・傾向性などを評価 ※5
 - (3) 集団の平均値・モデルとなる他の事業や他の地域との比較評価 ※6

- ※1 事業の結果について評価 = アウト評価
- ※2 事業の成果や効果について評価 = アウトカム評価
- ※3 質をとらえての評価 = 定性的評価、量をとらえての評価 = 定量的評価
- ※4 一定の基準を設けて、それに達しているかどうかの評価 = 絶対評価
- ※5 過去から同じインターバルで測定した結果から達成度・傾向性などを評価 = 時系列評価
- ※6 集団の平均値・モデルとなる他の事業や他の地域との比較評価 = 相対評価



<参考引用> 北海道立生涯学習推進センター調査研究報告書第22号 (平成18年3月発行)
社会教育行政の評価に関する調査研究 ~ 定量的評価の指標について ~

第4次当別町生涯学習推進計画<参考>最終自己評価シート

現在の当別町が支援している生涯学習についての評価・検証について（年度毎に社会教育委員で行う）

理解されている範囲で、現状の満足度・今後の重要度の評価の数値を、当てはまる数字に○印を付ける。

設問項目 当別町生涯学習推進計画 自己のライフプラン （各期さらに発展させていきたいこと）	現状評価・今後の重要度					現状の満足度					今後の重要度				
	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	特に重要	重要	い	あまり重要でない	重要でない	わからない				
<乳幼児期（保育所・幼稚園など）>															
①子育て支援、町内の各子育てサークル等の団体活動の促進	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
②認定子ども園や保育所と連携し、幼児教育を推進する	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
③体験育（体験でふれあい、体験で学び、体験で育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
④本育（本にふれあい、本に学び、本で育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
⑤交流育（交流でふれあい、交流で学び、交流で育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
<青少年期（小学校）>															
①学習育（学ぶことの楽しさを知り、意欲的に学び、学びの中で育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
②徳育（道徳でふれあい、道徳に学び、道徳にて育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
③活動育（活動でふれあい、活動で学び、活動で育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
<青少年期（中学校）>															
①学習育（学ぶことの楽しさを知り、意欲的に学び、学びの中で育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
②徳育（道徳でふれあい、道徳に学び、道徳にて育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
③活動育（活動でふれあい、活動で学び、活動で育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
④リーダー育（リーダーとしてのふれあい、リーダーとしての学び、リーダーとして育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
<青少年期（高等学校など）>															
①公共育（地域社会とふれあい、公共心を学び、地域社会で育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
②ボランティア育（ボランティアにふれあい、ボランティアを学び、ボランティアで育つ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
<成人期>															
①コミュニティにおける地域活動への積極的な参加	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
②妊娠・出産・育児・教育への適切な対応	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
③心身の健康保持	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
④地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
⑤安全な生活、防犯・防火・防災活動	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
<熟年期>															
①生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
②地域の歴史や文化の伝承	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
③地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
④コーディネーショントレーニングの普及啓発	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
合 計															

社会教育委員による第3次当別町生涯学習推進計画の評価・検証の流れ

社会教育委員が提供する評価する際の判断材料

- ①事業視察
- ②社会教育課担当による事業評価、学校教育評価票
- ③教育委員会担当職員への聞き取り

第1回社会教育委員会

- ・評価方法の説明
- ・事業評価・検証希望アンケート調査

6月～

- ・各委員に「事業評価・検証評価委員分担表」を送付。
- ・各委員に毎月初めに「社会教育課内月間行事予定表」を送付
- ・各委員は分担表に基づき事業視察。記録用紙に感想や工夫案を記入。

第2回社会教育委員会

- ・社会教育事業評価一覧表（中間報告）の提示
- ・各社会教育事業の評価についてディスカッション

3月上旬～中旬

- ・各委員に下記シートを送付
 - ①「当別町生涯学習推進計画評価シート」
 - ②「社会教育事業評価一覧表」
- ・各委員はシートに評価を記入し、教育委員会へ提出
- ・教育委員会は各委員から提出された評価シートを集計

第3回社会教育委員会

- ・評価シート集計を参照しながらディスカッション（グループ→全体）
- ・期別に「現状の満足度」「今後の重要度」をまとめる。

平成21年度当別町生涯学習推進計画評価シート

現在の当別町が支援している生涯学習についての評価・検証について（年度毎に社会教育委員で行う）

設問項目 当別町生涯学習推進計画 自己のライフプラン (各期さらに発展させていきたいこと)	現状評価・今後の重要度					現状の満足度					今後の重要度				
	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	特に重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない					
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1					
<乳幼児期（保育所・幼稚園など）> ①町内の各子育てサークル等の団体活動の促進 ②幼稚園・保育所の一体化に向けた子育て環境の促進 ③体験育（体験でふれあい、体験で学び、体験で育つ） ④本育（本にふれあい、本に学び、本で育つ） ⑤交流育（交流でふれあい、交流で学び、交流で育つ）	やや満足 4					特に重要 5									
<少年期（小学校）> ①学習育1（学ぶことの楽しさを知り、意欲的に学び、学びの中で育つ） ②徳育（道徳でふれあい、道徳に学び、道徳にて育つ） ③活動育（活動でふれあい、活動で学び、活動で育つ）	やや満足 4					特に重要 5									
<少年期（中学校）> ①学習育2（様々な学習にふれあい、様々な学習を学び、様々な学習社会で育つ） ②リーダー育（リーダーとしてのふれあい、リーダーとしての学び、リーダーとして育つ）	やや満足 4					重要 4									
<少年期（高等学校など）> ①公共育（地域社会とふれあい、公共心を学び、地域社会で育つ） ②ボランティア育（ボランティアにふれあい、ボランティアを学び、ボランティアで育つ）	やや満足 4					重要 4									
<青年期（大学など）> ①コミュニティ活動、地域行事への参加 ②文化・スポーツ活動への参加	やや満足 4					重要 4									
<成年期> ①コミュニティにおける地域活動への積極的な参加 ②妊娠・出産・育児・教育への適切な対応 ③心身の健康保持	やや満足 4					重要 4									
<壮年期> ①地域の人材を活用した人材バンク登録制度（とうべつ知恵袋）の拡大 ②地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進 ③「当別町青少年健全育成町民のつどい」の効果的な実施 ④安全な生活、防犯・防火・防災活動	やや満足 4					重要 4									
<熟年期> ①地域の歴史や文化の伝承 ②生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元	やや満足 4					重要 4									
合計						32/40					34/40				

平成22年度当別町生涯学習推進計画評価シート

現在の当別町が支援している生涯学習についての評価・検証について（年度毎に社会教育委員で行う）

現状評価・今後の重要度	現状の満足度					今後の重要度				
	満足 5	やや満足 4	やや不満 3	不満 2	わからない 1	特に重要 5	重要 4	あまり重要でない 3	重要でない 2	わからない 1
設問項目 当別町生涯学習推進計画 自己のライフプラン （各期さらに発展させていきたいこと）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
<乳幼児期（保育所・幼稚園など）> ①町内の各子育てサークル等の団体活動の促進 ②幼稚園・保育所の一体化に向けた子育て環境の促進 ③体験育（体験でふれあい、体験で学び、体験で育つ） ④本育（本にふれあい、本に学び、本で育つ） ⑤交流育（交流でふれあい、交流で学び、交流で育つ）	やや満足 4					特に重要 5				
<少年期（小学校）> ①学習育1（学ぶことの楽しさを知り、意欲的に学び、学びの中で育つ） ②徳育（道徳でふれあい、道徳に学び、道徳にて育つ） ③活動育（活動でふれあい、活動で学び、活動で育つ）	やや満足 4					特に重要 5				
<少年期（中学校）> ①学習育2（様々な学習にふれあい、様々な学習を学び、様々な学習社会で育つ） ②リーダー育（リーダーとしてのふれあい、リーダーとしての学び、リーダーとして育つ）	やや満足 4					特に重要 5				
<少年期（高等学校など）> ①公共育（地域社会とふれあい、公共心を学び、地域社会で育つ） ②ボランティア育（ボランティアにふれあい、ボランティアを学び、ボランティアで育つ）	やや満足 4					重要 4				
<青年期（大学など）> ①コミュニティー活動、地域行事への参加 ②文化・スポーツ活動への参加	やや満足 4					重要 4				
<成年期> ①コミュニティーにおける地域活動への積極的な参加 ②妊娠・出産・育児・教育への適切な対応 ③心身の健康保持	やや満足 4					重要 4				
<壮年期> ①地域の人材を活用した人材バンク登録制度（とうべつ知恵袋）の拡大 ②地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進 ③「当別町青少年健全育成町民のつどい」の効果的な実施 ④安全な生活、防犯・防火・防災活動	やや満足 4					重要 4				
<熟年期> ①地域の歴史や文化の伝承 ②生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元	満足 5					特に重要 5				
合 計	33 / 40					36 / 40				

平成23年度当別町生涯学習推進計画評価シート

現在の当別町が支援している生涯学習についての評価・検証について（年度毎に社会教育委員で行う）

現状評価・今後の重要度 設問項目 当別町生涯学習推進計画 自己のライフプラン （各期さらに発展させていきたいこと）	現状の満足度					今後の重要度				
	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	特に重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
<乳幼児期（保育所・幼稚園など）> ①町内の各子育てサークル等の団体活動の促進 ②幼稚園・保育所の一体化に向けた子育て環境の促進 ③体験育（体験でふれあい、体験で学び、体験で育つ） ④本育（本にふれあい、本に学び、本で育つ） ⑤交流育（交流でふれあい、交流で学び、交流で育つ）	やや満足 4					特に重要 5				
<少年期（小学校）> ①学習育1（学ぶことの楽しさを知り、意欲的に学び、学びの中で育つ） ②徳育（道徳でふれあい、道徳に学び、道徳にて育つ） ③活動育（活動でふれあい、活動で学び、活動で育つ）	やや満足 4					特に重要 5				
<少年期（中学校）> ①学習育2（様々な学習にふれあい、様々な学習を学び、様々な学習社会で育つ） ②リーダー育（リーダーとしてのふれあい、リーダーとしての学び、リーダーとして育つ）	やや満足 4					特に重要 5				
<少年期（高等学校など）> ①公共育（地域社会とふれあい、公共心を学び、地域社会で育つ） ②ボランティア育（ボランティアにふれあい、ボランティアを学び、ボランティアで育つ）	やや満足 4					重要 4				
<青年期（大学など）> ①コミュニティ活動、地域行事への参加 ②文化・スポーツ活動への参加	やや満足 4					重要 4				
<成年期> ①コミュニティにおける地域活動への積極的な参加 ②妊娠・出産・育児・教育への適切な対応 ③心身の健康保持	やや満足 4					重要 4				
<壮年期> ①地域の人材を活用した人材バンク登録制度（とうべつ知恵袋）の拡大 ②地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進 ③「当別町青少年健全育成町民のつどい」の効果的な実施 ④安全な生活、防犯・防火・防災活動	やや満足 4					重要 4				
<熟年期> ①地域の歴史や文化の伝承 ②生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元	やや満足 4					特に重要 5				
合 計	32 / 40					35 / 40				

平成24年度当別町生涯学習推進計画評価シート

現在の当別町が支援している生涯学習についての評価・検証について（年度毎に社会教育委員で行う）

設問項目 当別町生涯学習推進計画 自己のライフプラン (各期さらに発展させていきたいこと)	現状の満足度					今後の重要度				
	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	特に重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
<乳幼児期（保育所・幼稚園など）> ①町内の各子育てサークル等の団体活動の促進 ②幼稚園・保育所の一体化に向けた子育て環境の促進 ③体験育（体験でふれあい、体験で学び、体験で育つ） ④本育（本にふれあい、本に学び、本で育つ） ⑤交流育（交流でふれあい、交流で学び、交流で育つ）										
<少年期（小学校）> ①学習育1（学ぶことの楽しさを知り、意欲的に学び、学びの中で育つ） ②徳育（道徳でふれあい、道徳に学び、道徳にて育つ） ③活動育（活動でふれあい、活動で学び、活動で育つ）										
<少年期（中学校）> ①学習育2（様々な学習にふれあい、様々な学習を学び、様々な学習社会で育つ） ②リーダー育（リーダーとしてのふれあい、リーダーとしての学び、リーダーとして育つ）										
<少年期（高等学校など）> ①公共育（地域社会とふれあい、公共心を学び、地域社会で育つ） ②ボランティア育（ボランティアにふれあい、ボランティアを学び、ボランティアで育つ）										
<青年期（大学など）> ①コミュニティ活動、地域行事への参加 ②文化・スポーツ活動への参加										
<成年期> ①コミュニティにおける地域活動への積極的な参加 ②妊娠・出産・育児・教育への適切な対応 ③心身の健康保持										
<壮年期> ①地域の人材を活用した人材バンク登録制度（とうべつ知恵袋）の拡大 ②地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進 ③「当別町青少年健全育成町民のつどい」の効果的な実施 ④安全な生活、防犯・防火・防災活動										
<熟年期> ①地域の歴史や文化の伝承 ②生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元										
合 計										

当別町グループアンケート調査結果

調査対象者：各期別の団体等のみなさん 320名

調査方法：直接依頼

調査時期：平成 25 年 10 月～12 月初旬

乳幼児期

- ・ 保育所、幼稚園の保護者、遊びの広場に参加している保護者、保健師の家庭訪問の幼児を持つ母親 119名

1 乳幼児期に親として参加する（学ぶ）講座や事業を町や教育委員会が実施する上で、大切にしてほしいこと

「父親・母親の役割、親子の信頼関係（家族関係の確立）」、「安全で快適な環境づくり」を重要視する保護者の割合が大きい。

2 町として乳幼児期の（学ぶ）講座や事業をさらに発展・充実させたらよいと思うもの

「体験育」、「幼稚園・保育所の一体化に向けた子育て環境の促進の発展・充実」を望む割合が大きい。

3 その他

多様な遊び場、ベビーマッサージ、ベビーヨガなど親子の心と体のふれあい事業、子育てに関する悩みをケアするような講話を求める方がいる一方、幼保一体化反対、色々な体験を求めるが、子どもが少なくなってきた当別では、それが無理だと思うという声も中にはあった。

少年期（小学校）

- ・ 当別子ども会連合会役員、小学生の保護者、TOWNミーティングに参加した児童会役員 32名

1 町として少年期（小学校）の生涯学習を進めていく上で、最も重要だと思うもの

「思いやりの心や規範意識の育成、礼儀の体得、命の大切さ、物の大切さの理解」が一番重要視されている。また、「友だち・仲間づくりや思いやりの心や集団生活のルールの体得」、「学習方法・学習習慣の確立」など規範意識や学力への関心が高くなっている。

2 町として少年期（小学校）の（学ぶ）講座や事業をさらに発展・充実させたらよいと思うもの

「徳育」が最も多く、その次に「活動育」を望む方が多い。

3 その他

子育てや子育て環境、親として参加する（学ぶ）講座や事業
地元愛の養成、親子で様々な事をする事業を望む方がいる。一方で、親への教育が大切だ
という方もいました。

少年期（中学校）

- ・ 当別子ども会連合会役員、中学生の保護者、TOWNミーティングに参加した生徒会役員 25名

1 町として少年期（中学校）の生涯学習を進めていく上で、最も重要だと思うもの

「自分自身で考え、判断する能力を育てる」と「学力の向上や、思いやりの心を育てる」
が一番多く、その次に「規則正しい生活習慣をつける」「ボランティア活動を体験する」が
多かった。中学生になると自己判断、自立心の育成とやはり、学力向上や体験活動への関
心が高い。

2 町として少年期（中学校）の生涯学習をさらに発展・充実させたらよいと思うもの
圧倒的に「学習育」が多く、その次に「リーダー育」の発展・充実を望む方が多かった。

3 その他

読書環境の整備、学年を超えての交流の機会、職業学習などを望む声があった。

少年期（高校）

- ・ 当別高校PTA役員、TOWNミーティングに参加した生徒会役員、国際協カクラブ 16名

1 町として少年期（高校）の生涯学習を進めていく上で、重要だと思うもの

「自己を認識し、自己コントロールできる能力の養成」が重要だという方が多かった。
その次に「親と子の精神的な自立」と「職業に関する専門的な知識・技術の習得」が多か
った。

2 町として少年期（高校）の生涯学習をさらに発展・充実させたらよいと思うもの
のとして、「公共育」「ボランティア育」以外に特になかった。

3 その他

事業がとても充実しているという記載の方がいた。

青年期

- ・ 北海道医療大学生、TOWNミーティングに参加した大学生、他の大学生、専門学校生 41名

1 町として青年期の生涯学習を進めていく上で、最も重要だと思うもの

「コミュニティー活動、地域行事への参加」が最も多く、その次に、「社会人としての自立、社会人の権利・義務の認識、社会的なマナーの体得」、「文化・スポーツ活動への参加」が重要だとする方が多かった。

2 町として青年期の生涯学習をさらに発展・充実させたらよいと思うもの

「コミュニティー活動、地域行事への参加」が若干多く、その次に「文化・スポーツ活動への参加」を発展・充実させたいという方が多かった。

3 その他

ジュニアリーダーのOB、OG組織を望む方や地域の人々との交流イベントを増やすことで地域の活性化にも繋がるということを記載した方がいた。

また、「ツタヤ、マック、スタバ等の施設がほしい」という都市部にある遊興施設設置などや「映画などの芸術にふれる機会を増やしてほしい」という意見もあった。

成年期

- ・ JA青年部、商工会青年部、JC役員 28名

1 町として成年期の生涯学習を進めていく上で、最も重要だと思うもの

「自立した生活と社会との関わりを大切にする。」が最も多く、その次に「妊娠・出産・育児・教育への適切な対応」が重要だとする方が多かった。

2 町として成年期の生涯学習をさらに発展・充実させたらよいと思うもの

「コミュニティーにおける地域活動への積極的な参加」が最も多く、その次に「妊娠・出産・育児・教育への適切な対応」を発展・充実させたいという方が多かった。

3 その他

障害のある方でも安心して参加できるコミュニティーづくりを実践できる事業を望む方がいた。

壮年期

- ・ 文化協会役員、体育協会役員、女性協役員 30名

1 町として壮年期の生涯学習を進めていく上で、最も重要だと思うもの
「心身の健康保持（心の健康や生活習慣病の予防、健診等の促進）」が最も多く、その次に
「趣味・特技を活かすサークル活動の充実」、「後継者の育成、習得した専門的知識・技能
の社会への還元」が重要だとする方が多かった。

2 町として壮年期の生涯学習をさらに発展・充実させたらよいと思うもの
「安全な生活、防犯・防火・防災活動（地域活動、巡回活動等の協力）の実践」が最も多
く、その次に「地域の人材を活用した人材バンク登録制度（とうべつ知恵袋）の拡大」と
「当別町学校支援地域本部を主体として、地域教育協議会議の開催、学校支援ボランティ
ア募集、地域コーディネーターの配置、人材バンクの活用を図る。」を発展・充実させたい
という方が多かった。

3 その他

図書館の実現、旧公民館の取り壊し、文化サークルへの支援、子どもを育てるために町が
中心となって触れ合う場、ボランティア登録とその活用を望む意見があった。

熟年期

- ・ ことぶき大学受講生、女性協役員など 29名

1 町として熟年期の生涯学習を進めていく上で、最も重要だと思うもの
「ゆとりやうるおい等、心の豊かさにつながる芸術・文化に親しむ活動」が最も多く、そ
の次に「福祉制度の理解と活用」、その次に「同世代・異世代・地域間の交流の活発化促進
」が重要だとする方が多かった。

2 町として熟年期の生涯学習をさらに発展・充実させたらよいと思うもの
「生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元」が最も多く、その次に
「地域の歴史や文化の伝承」を発展・充実させたいという方が多かった。
その他で手芸などとの回答があった。

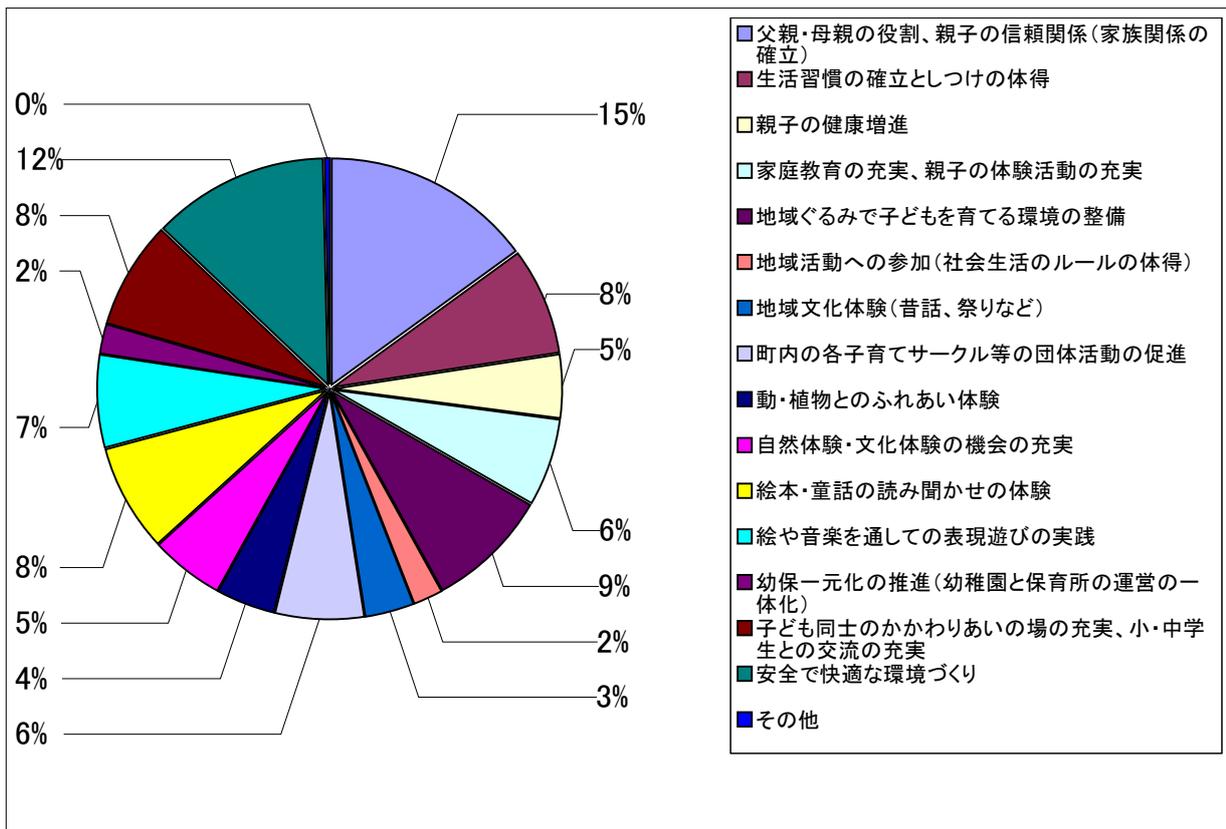
3 その他は特になかった。

資料4

「乳幼児期」アンケート

1 乳幼児期に親として参加する(学ぶ)講座や事業を町や教育委員会が実施する上で、大切にしてほしいことに○を付けてください。(複数可)

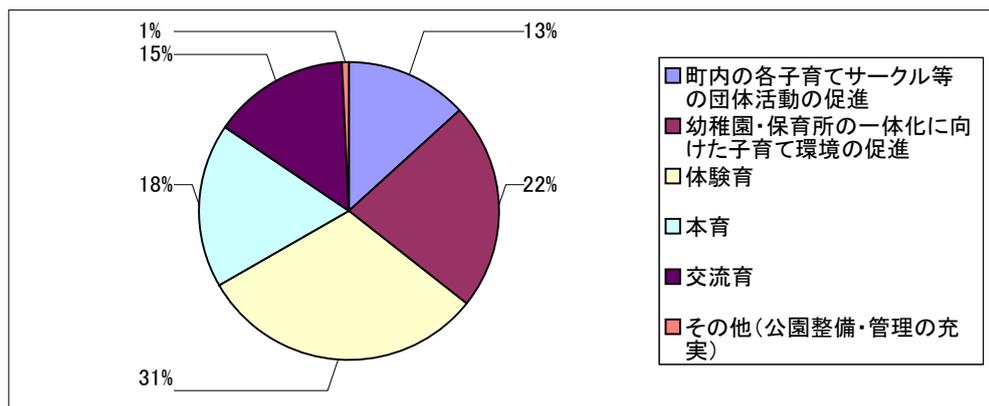
選 択 肢	回答数	割 合
父親・母親の役割、親子の信頼関係(家族関係の確立)	43	15%
生活習慣の確立としつけの体得	22	8%
親子の健康増進	13	5%
家庭教育の充実、親子の体験活動の充実	18	6%
地域ぐるみで子どもを育てる環境の整備	25	9%
地域活動への参加(社会生活のルールの体得)	6	2%
地域文化体験(昔話、祭りなど)	10	3%
町内の各子育てサークル等の団体活動の促進	18	6%
動・植物とのふれあい体験	12	4%
自然体験・文化体験の機会の充実	15	5%
絵本・童話の読み聞かせの体験	22	8%
絵や音楽を通しての表現遊びの実践	19	7%
幼保一元化の推進(幼稚園と保育所の運営の一体化)	6	2%
子ども同士のかかわりあいの場の充実、小・中学生との交流の充実	22	8%
安全で快適な環境づくり	36	12%
その他	1	0%
合 計	288	



その他:よくばりですが、全てあればよいと思います。こんなにも恵まれた環境の当別なのに自然とともに育てほしいと考え、月形の幼稚園に通っています。これが当別であれば最高です。子育てしやすい地域、そんな地になればもっと人が住む町となる。剣淵の絵本の里のようなか当別色のあることができればいいですね。

2 町として乳幼児期の(学ぶ)講座や事業をさらに発展・充実させたらよいと思うものに○を付けてください。(複数可)

選 択 肢	回答数	割 合
町内の各子育てサークル等の団体活動の促進	17	13%
幼稚園・保育所の一体化に向けた子育て環境の促進	29	22%
体験育	40	31%
本育	23	18%
交流育	19	15%
その他(公園整備・管理の充実)	1	1%
合 計	129	



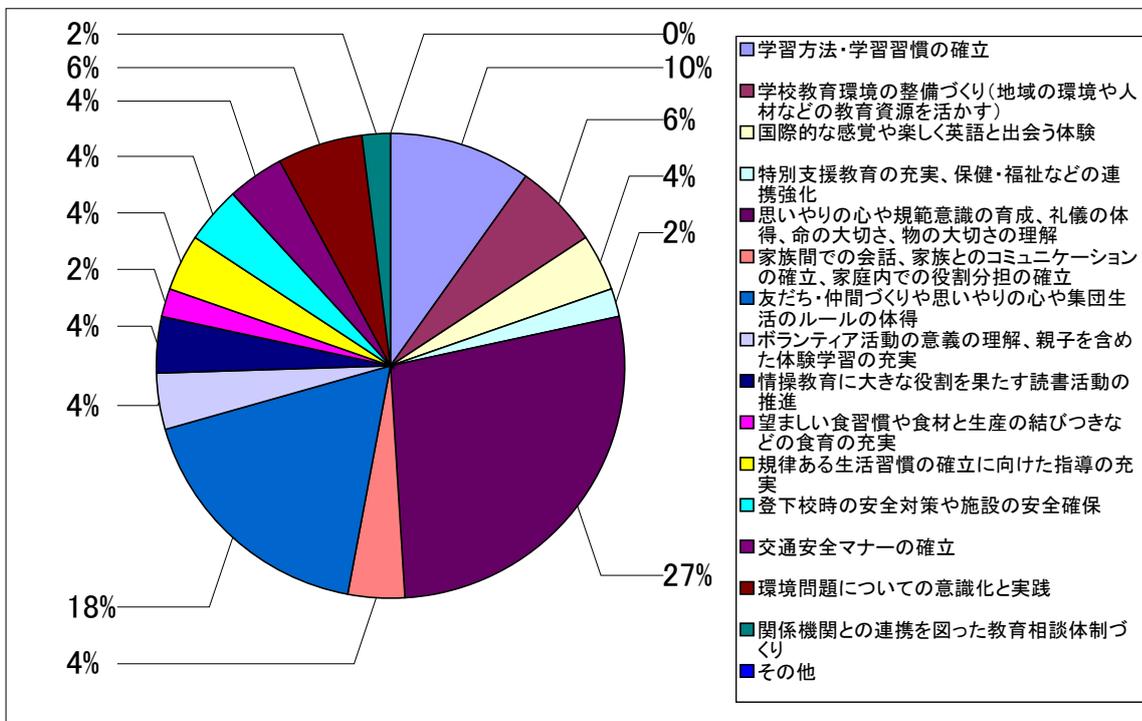
3 その他、乳幼児期に親として参加する(学ぶ)講座や事業に関して自由に記載してください。(実施してほしい事業等があれば)

- ・子どもと工作をしたり、絵本の読み聞かせを聞きたい
- ・多様な遊び場がほしい。(外出が限られるので)
- ・健診がもっと小刻みにあればよい。
- ・紙芝居や人形劇等でマナーについて学べればよい。
- ・幼保一体化には賛成できない。(お互い良さがあるので、別の考えも必要)
- ・子どもには色々な体験を通して学んでほしいですが、子どもが少なくなってきた当別では、それが無理だと思うので特に何も希望しません。
- ・親子で英語・スポーツ・音楽・ヨガ等、小さい子といっしょにできる無料のサークルがあってほしい。
- ・ベビーマッサージ、ベビーヨガなど親子の心と体のふれあい事業。この時期に人として大切なこと育んでいってほしいです。いつかは当別に返ってゆく大きなものが育まれます。(同内容の意見が他に1つ)
- ・言葉が難しく理解しづらい部分がある。
- ・小中高へ、誕生学の話は是非、聞かせてほしい。(同内容の意見が他に1つ)
- ・赤ちゃんクラブの充実を希望します。
- ・子育てに関する悩みをケアするようなお話を聞けるもの。

「少年期(小学校)」アンケート

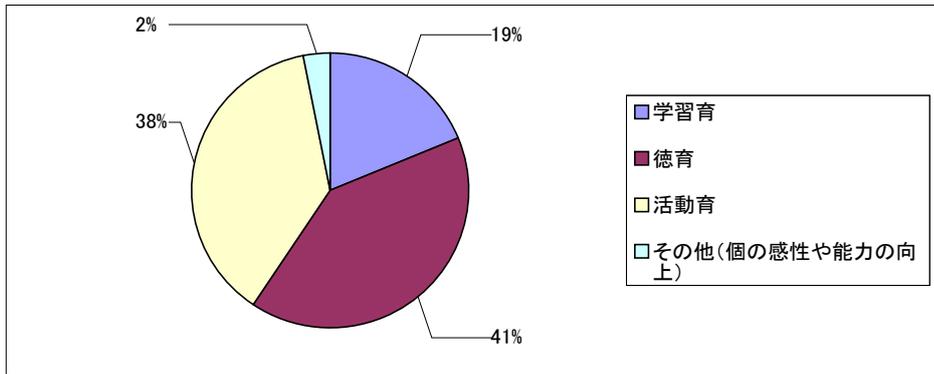
1 町として少年期(小学校)の生涯学習を進めていく上で、最も重要だと思うものに○を付けてください。(複数可)

選 択 肢	回答数	割合
学習方法・学習習慣の確立	5	10%
学校教育環境の整備づくり(地域の環境や人材などの教育資源を活かす)	3	6%
国際的な感覚や楽しく英語と出会う体験	2	4%
特別支援教育の充実、保健・福祉などの連携強化	1	2%
思いやりの心や規範意識の育成、礼儀の体得、命の大切さ、物の大切さの理解	14	27%
家族間での会話、家族とのコミュニケーションの確立、家庭内での役割分担の確立	2	4%
友だち・仲間づくりや思いやりの心や集団生活のルールの体得	9	18%
ボランティア活動の意義の理解、親子を含めた体験学習の充実	2	4%
情操教育に大きな役割を果たす読書活動の推進	2	4%
望ましい食習慣や食材と生産の結びつきなどの食育の充実	1	2%
規律ある生活習慣の確立に向けた指導の充実	2	4%
登下校時の安全対策や施設の安全確保	2	4%
交通安全マナーの確立	2	4%
環境問題についての意識化と実践	3	6%
関係機関との連携を図った教育相談体制づくり	1	2%
その他	0	0%
合 計	51	



2 町として少年期(小学校)の(学ぶ)講座や事業をさらに発展・充実させたらよいと思うものに○を付けてください。(複数可)

選 択 肢	回答数	割 合
学習育	6	19%
徳育	13	41%
活動育	12	38%
その他(個の感性や能力の向上)	1	2%
合 計	32	



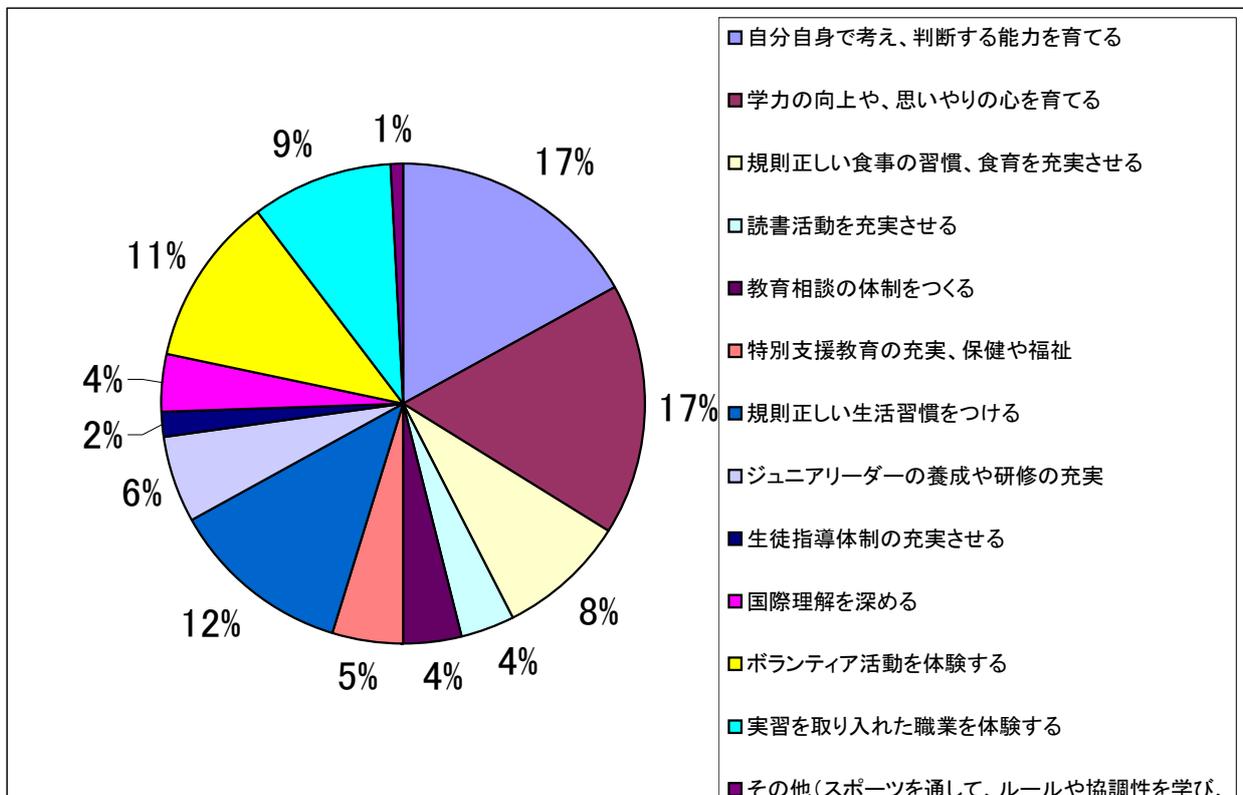
3 その他、子育てや子育て環境、親として参加する(学ぶ)講座や事業に関して自由に記載してください。(実施してほしい事業等があれば)

- ・生まれ育った当別を自慢できるように地元愛が育つ事業を行ってほしい。
- ・子ども・大人が楽しくスポーツできる企画や子ども・大人が百人一首を体験できる企画
- ・他の学校がやっている事をもっと知りたい。
- ・小学生から高校生までの親子で様々な事をする事業を実施してほしい。
- ・理想やきれいごとばかりの講座では変な知識ばかりが親に刷り込まれるので、親や子育ての実情を主とした、現在の親が抱えこみがちな悩み等の解決方法や、勘違いしている親をハッとさせるような講義や事業の実施を希望します。個人的には、現代は子どもの教育より親の教育が優先と考えています。

「少年期(中学校)」アンケート

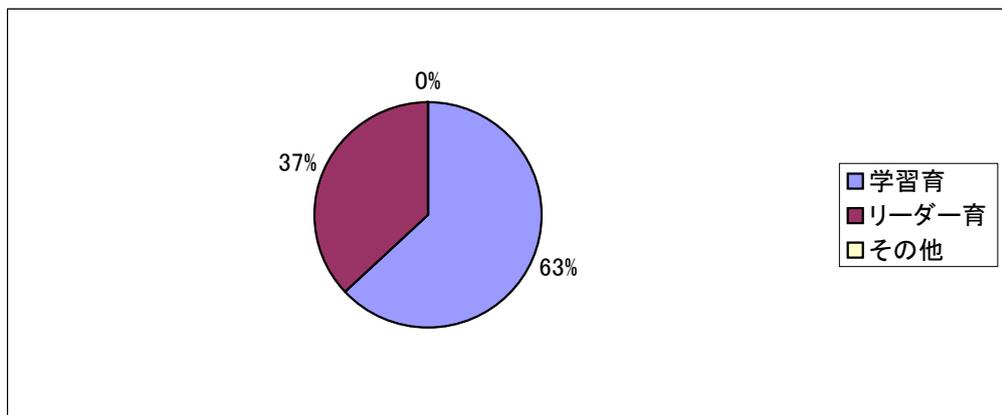
1 町として少年期(中学校)の生涯学習を進めていく上で、最も重要だと思うものに○を付けてください。(複数可)

選 択 肢	回答数	割 合
自分自身で考え、判断する能力を育てる	18	17%
学力の向上や、思いやりの心を育てる	18	17%
規則正しい食事の習慣、食育を充実させる	9	8%
読書活動を充実させる	4	4%
教育相談の体制をつくる	4	4%
特別支援教育の充実、保健や福祉	5	5%
規則正しい生活習慣をつける	13	12%
ジュニアリーダーの養成や研修の充実	6	6%
生徒指導体制の充実させる	2	2%
国際理解を深める	4	4%
ボランティア活動を体験する	12	11%
実習を取り入れた職業を体験する	10	9%
その他(スポーツを通して、ルールや協調性を学び、生活の中に健康感を取り入れる)	1	1%
合 計	106	



2 町として少年期(中学校)の生涯学習をさらに発展・充実させたらよいと思うものに○を付けてください。(複数可)

選 択 肢	回答数	割 合
学習育	17	63%
リーダー育	10	37%
その他	0	0%
合 計	27	



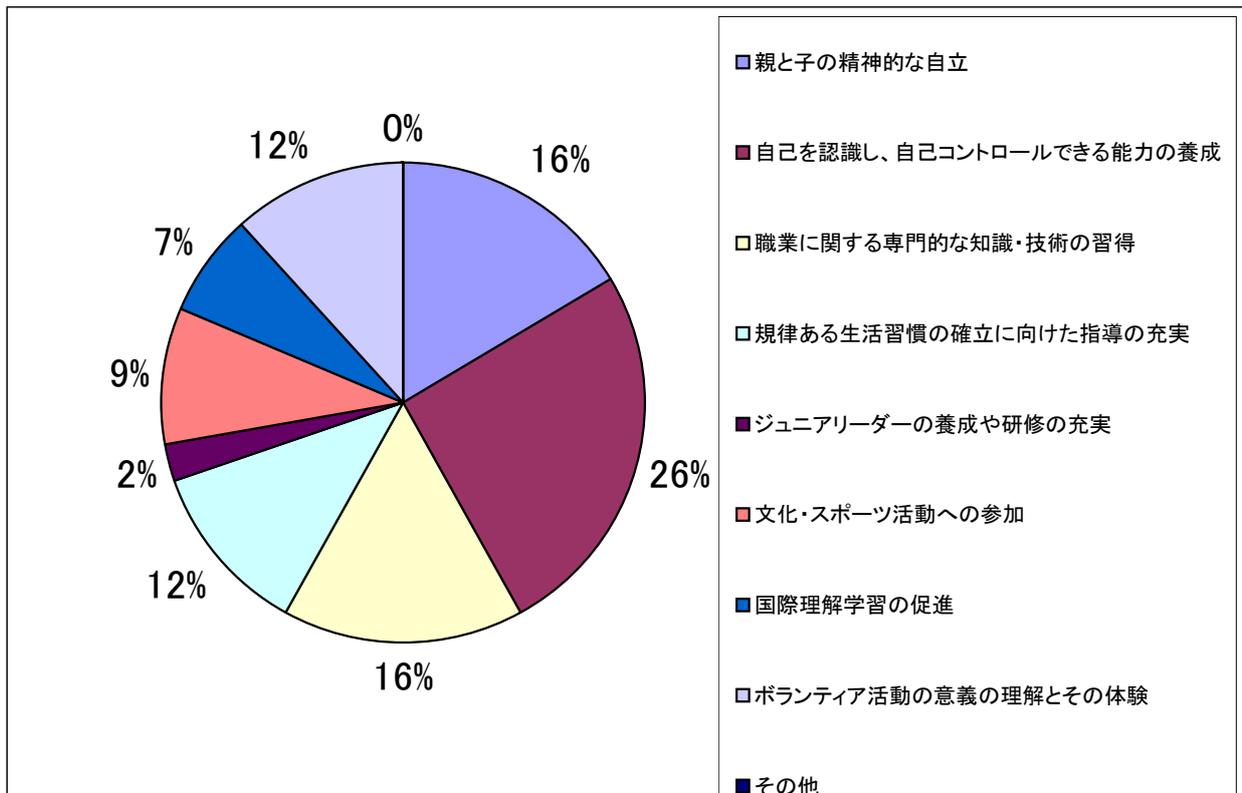
3 その他、少年期(中学校)の生涯学習に関して自由に記載してください。(実施してほしい事業等があれば)

- ・読書環境の整備(本を読む、ネットでなくて本で調べる、そういうことができる場所)
- ・学年を超えての交流の機会(タウンミーティングのような)
- ・職業についてや学習する意味についての話など

「少年期(高校)」アンケート

1 町として少年期(高校)の生涯学習を進めていく上で、重要だと思うものに○を付けてください。(複数可)

選 択 肢	回答数	割 合
親と子の精神的な自立	7	16%
自己を認識し、自己コントロールできる能力の養成	11	26%
職業に関する専門的な知識・技術の習得	7	16%
規律ある生活習慣の確立に向けた指導の充実	5	12%
ジュニアリーダーの養成や研修の充実	1	2%
文化・スポーツ活動への参加	4	9%
国際理解学習の促進	3	7%
ボランティア活動の意義の理解とその体験	5	12%
その他	0	0%
合 計	43	



2 町として少年期(高校)の生涯学習をさらに発展・充実させたらよいと思うものとして、下記の二点を掲げておりますが、それ以外にあれば下の枠内に記載願います。

★「公共育」地域の活動に積極的に参画し、地域社会の一員としての社会的なマナーや道徳心を養う。

★「ボランティア育」高校と連携し、高校生ボランティアなどの自発的な奉仕・社会体験活動の機会の拡充に努める。
(複数可)

3 その他、少年期(高校)の生涯学習に関して自由に記載してください。(実施してほしい事業等があれば)

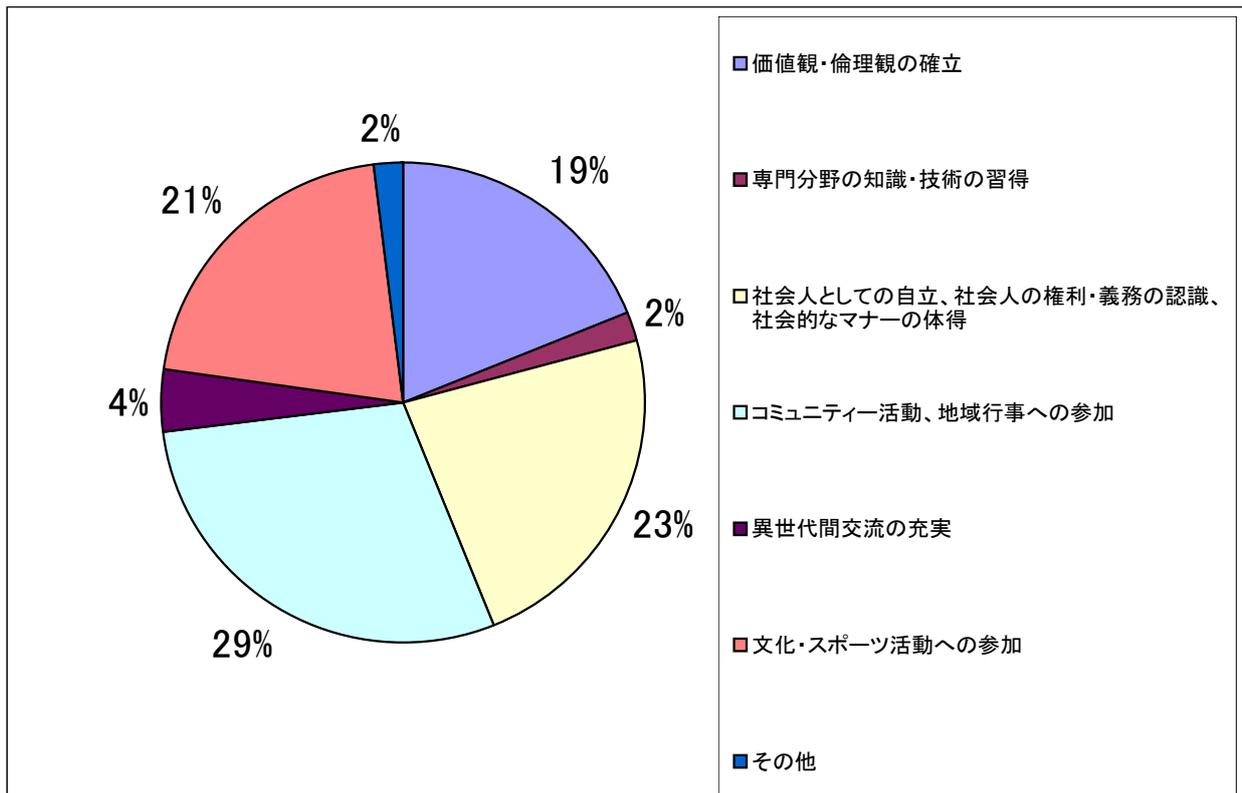
・とても充実している。(2件)

・社会に出る前に職場体験を実施してほしい。

「青年期」アンケート

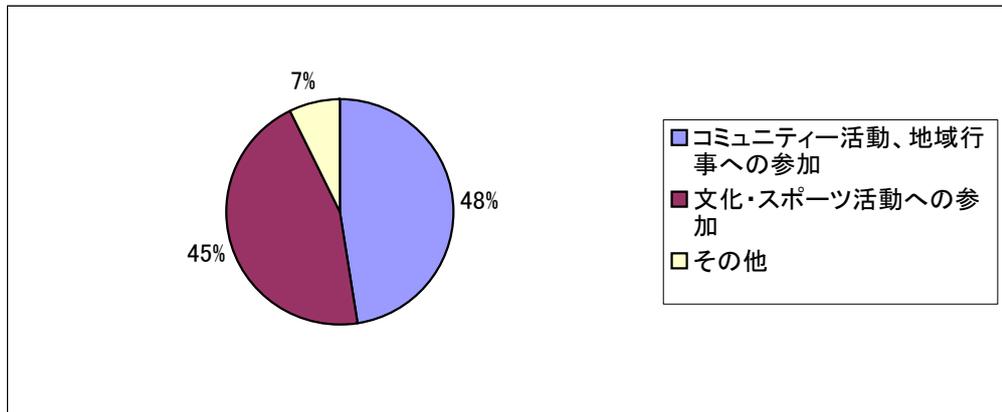
1 町として青年期の生涯学習を進めていく上で、最も重要だと思うものに○を付けてください。

選 択 肢	回答数	割 合
価値観・倫理観の確立	9	19%
専門分野の知識・技術の習得	1	2%
社会人としての自立、社会人の権利・義務の認識、社会的なマナーの体得	11	23%
コミュニティー活動、地域行事への参加	14	29%
異世代間交流の充実	2	4%
文化・スポーツ活動への参加	10	21%
その他	1	2%
合 計	48	



2 町として青年期の生涯学習をさらに発展・充実させたらよいと思うものに○を付けてください。

選 択 肢	回答数	割 合
コミュニティー活動、地域行事への参加	20	48%
文化・スポーツ活動への参加	19	45%
その他	3	7%
合 計	42	



その他

- 遊興施設を作ってほしい。
- まつりをつくってほしい。
- 勉強にも活用できるカフェなどがほしい。

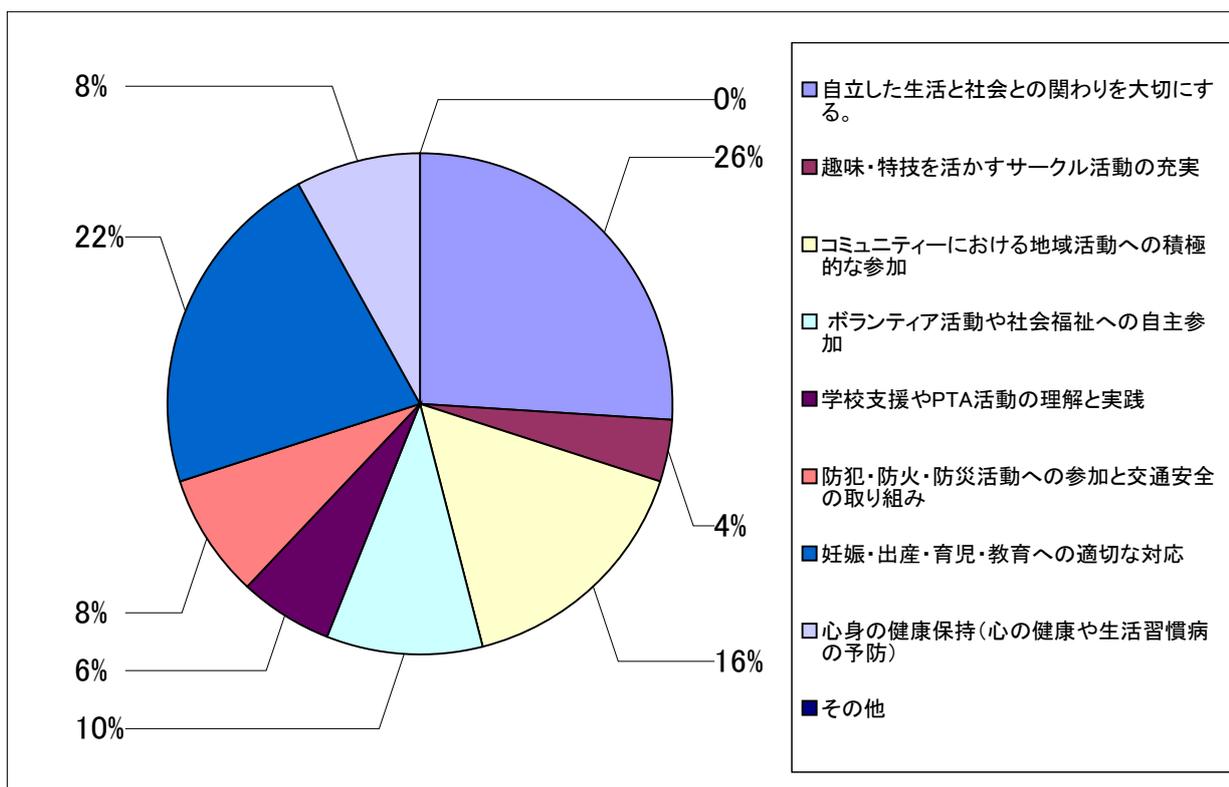
3 その他、青年期の生涯学習に関して自由に記載してください。(実施してほしい事業等があれば)

- ・英会話
- ・ジュニアリーダーのOB、OG組織がほしい。
- ・KJ法にならって、アイデアをどんどん出していく。
- ・地域の人々との交流できるようなイベントを増やすことで、世代間、学生と地域間の触れ合うことのできる機会になる。結果、地域の活性化にも繋がると思う。
- ・高齢者の交通マナー講習
- ・当別町の観光ツアー
- ・JRの増便(他 1件)
- ・ツタヤ、マック、スタバ等がほしい。(他 3件)
- ・プールがほしい。
- ・映画などの芸術にふれる機会を増やしてほしい。
- ・地域の人々とのコミュニケーションの場や活動を増やしてほしい。
- ・体育館でサッカーができるようにしてほしい。

「成年期」アンケート

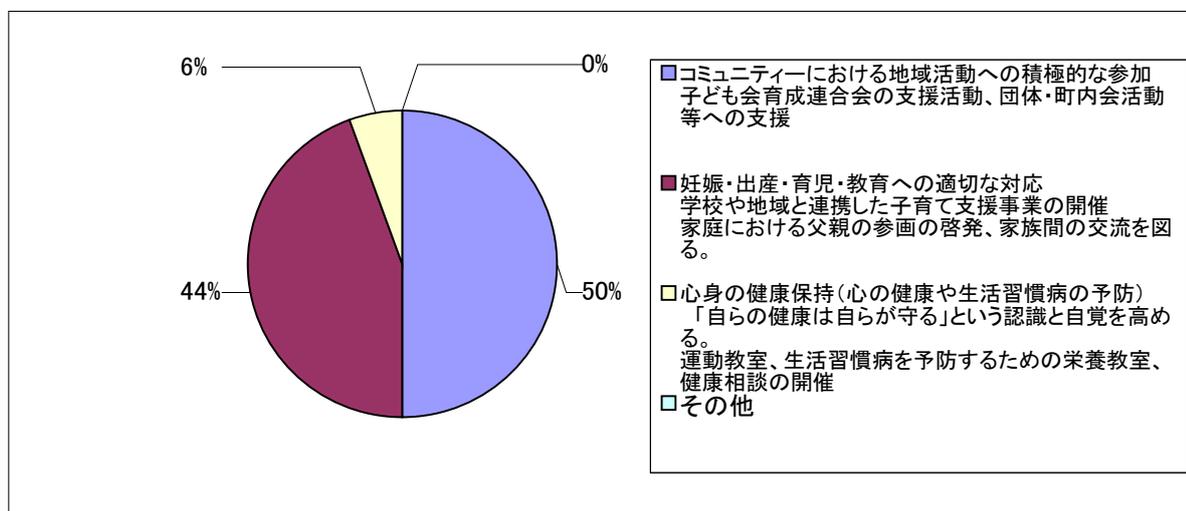
1 町として成年期の生涯学習を進めていく上で、最も重要だと思うものに○を付けてください。(複数可)

選 択 肢	回答数	割 合
自立した生活と社会との関わりを大切にする。	13	26%
趣味・特技を活かすサークル活動の充実	2	4%
コミュニティにおける地域活動への積極的な参加	8	16%
ボランティア活動や社会福祉への自主参加	5	10%
学校支援やPTA活動の理解と実践	3	6%
防犯・防火・防災活動への参加と交通安全の取り組み	4	8%
妊娠・出産・育児・教育への適切な対応	11	22%
心身の健康保持(心の健康や生活習慣病の予防)	4	8%
その他	0	0%
合 計	50	



2 町として成年期の生涯学習をさらに発展・充実させたらよいと思うものに○を付けてください。(複数可)

選 択 肢	回答数	割 合
コミュニティにおける地域活動への積極的な参加 子ども会育成連合会の支援活動、団体・町内会活動等への支援	18	50%
妊娠・出産・育児・教育への適切な対応 学校や地域と連携した子育て支援事業の開催 家庭における父親の参画の啓発、家族間の交流を図る。	16	44%
心身の健康保持(心の健康や生活習慣病の予防) 「自らの健康は自らが守る」という認識と自覚を高める。 運動教室、生活習慣病を予防するための栄養教室、健康相談の開催	2	6%
その他	0	0%
合 計	36	



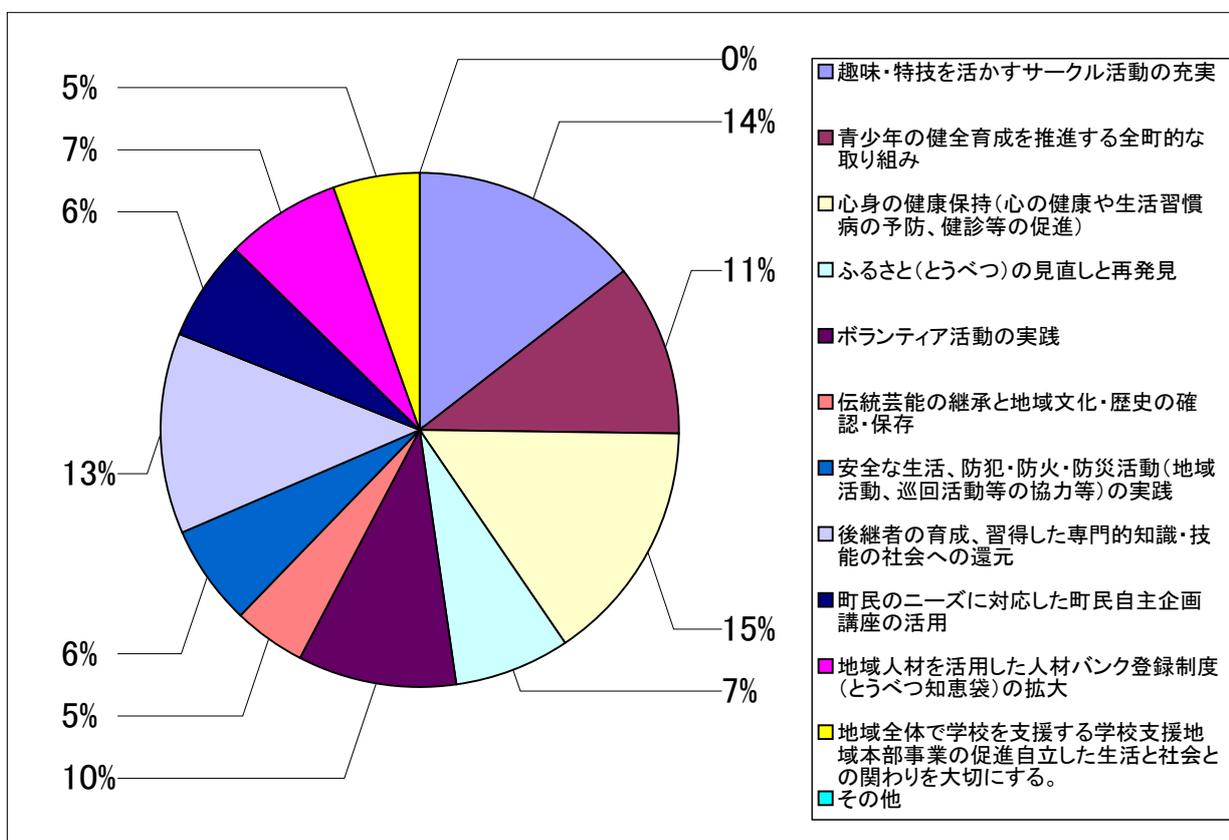
3 その他、成年期の生涯学習に関して自由に記載してください。(実施してほしい事業等があれば)

・障害のある方でも安心して参加できるコミュニティづくりを実践できる事業がほしいです。

「壮年期」アンケート

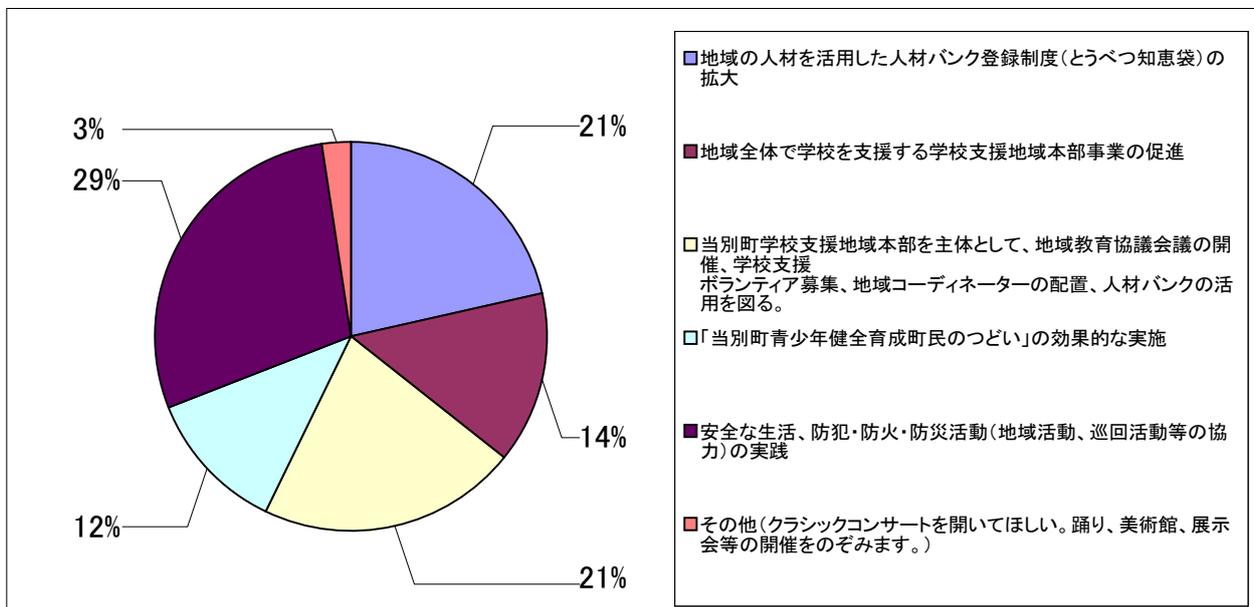
1 町として壮年期の生涯学習を進めていく上で、最も重要だと思うものに○を付けてください。(複数可)

選 択 肢	回答数	割 合
趣味・特技を活かすサークル活動の充実	16	14%
青少年の健全育成を推進する全町的な取り組み	12	11%
心身の健康保持(心の健康や生活習慣病の予防、健診等の促進)	17	15%
ふるさと(とうべつ)の見直しと再発見	8	7%
ボランティア活動の実践	11	10%
伝統芸能の継承と地域文化・歴史の確認・保存	5	5%
安全な生活、防犯・防火・防災活動(地域活動、巡回活動等の協力等)の実践	7	6%
後継者の育成、習得した専門的知識・技能の社会への還元	14	13%
町民のニーズに対応した町民自主企画講座の活用	7	6%
地域人材を活用した人材バンク登録制度(とうべつ知恵袋)の拡大	8	7%
地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進自立した生活と社会との関わりを大切にする。	6	5%
その他	0	0%
合 計	111	



2 町として壮年期の生涯学習をさらに発展・充実させたらよいと思うものに○を付けてください。(複数可)

選 択 肢	回答数	割 合
地域の人材を活用した人材バンク登録制度(とうべつ知恵袋)の拡大	9	21%
地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進	6	14%
当別町学校支援地域本部を主体として、地域教育協議会議の開催、学校支援ボランティア募集、地域コーディネーターの配置、人材バンクの活用を図る。	9	21%
「当別町青少年健全育成町民のつどい」の効果的な実施	5	12%
安全な生活、防犯・防火・防災活動(地域活動、巡回活動等の協力)の実践	12	29%
その他(クラシックコンサートを開いてほしい。踊り、美術館、展示会等の開催をのぞみます。)	1	3%
合 計	42	



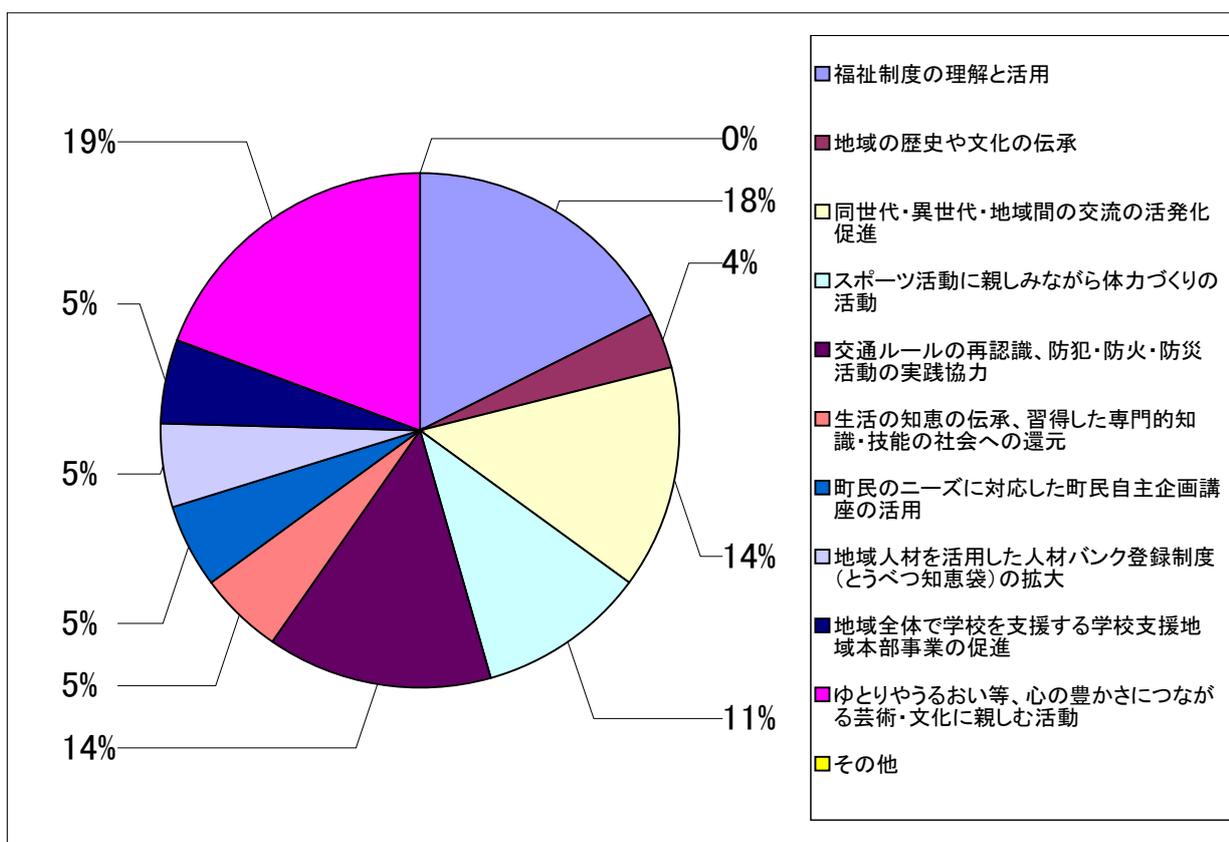
3 その他、壮年期の生涯学習に関して自由に記載してください。(実施してほしい事業等があれば)

- ・図書館を是非早急に実現してください。図書ボランティアに参加したいです。
- ・旧公民館の取り壊しを実現してください。
- ・地域に合った発展を充実させたらいいと思います。
- ・文化サークルを町が支援して作って活躍の場を広げてほしい。
- ・壮年期の人と地域で子どもを育てるために町が中心となって触れ合う場を企画してはどうか。
- ・ボランティアの活動については重要かと思います。元気で時間のある人はどしどしボランティア登録をして社会に貢献したほうがいいし、その活用を図るべきか

「熟年期」アンケート

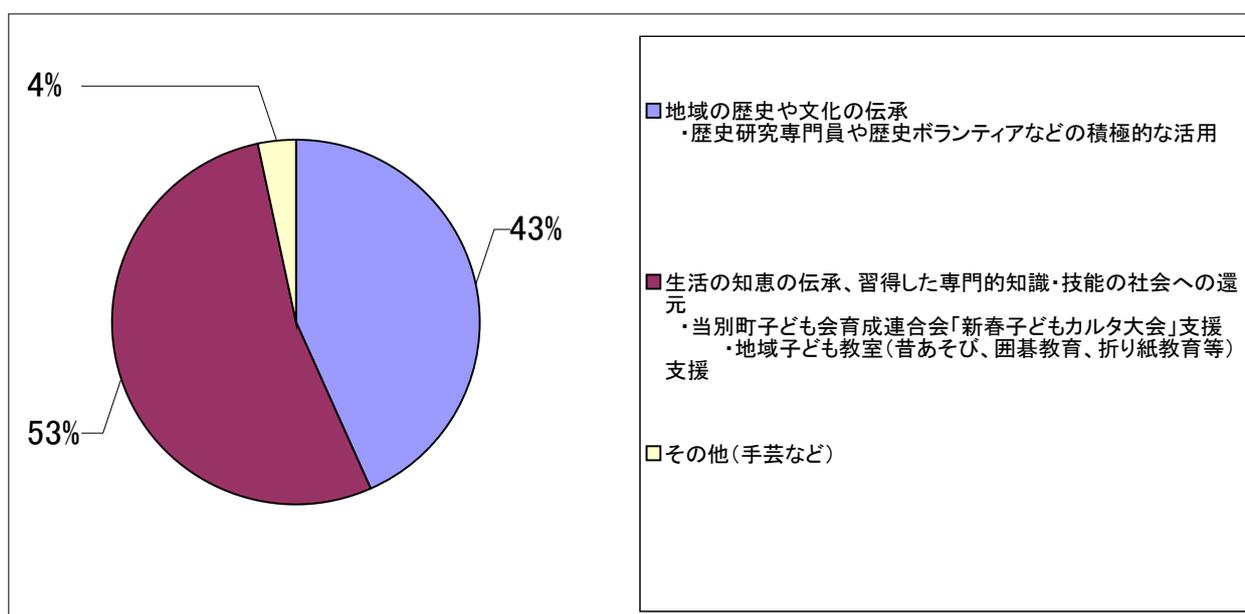
1 町として熟年期の生涯学習を進めていく上で、最も重要だと思うものに○を付けてください。(複数可)

選 択 肢	回答数	割 合
福祉制度の理解と活用	10	18%
地域の歴史や文化の伝承	2	4%
同世代・異世代・地域間の交流の活発化促進	8	14%
スポーツ活動に親しみながら体力づくりの活動	6	11%
交通ルールの再認識、防犯・防火・防災活動の実践協力	8	14%
生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元	3	5%
町民のニーズに対応した町民自主企画講座の活用	3	5%
地域人材を活用した人材バンク登録制度(とうべつ知恵袋)の拡大	3	5%
地域全体で学校を支援する学校支援地域本部事業の促進	3	5%
ゆとりやうるおい等、心の豊かさにつながる芸術・文化に親しむ活動	11	19%
その他	0	0%
合 計	57	



2 町として熟年期の生涯学習をさらに発展・充実させたいと思うものに○を付けてください。(複数可)

選 択 肢	回答数	割 合
地域の歴史や文化の伝承 ・歴史研究専門員や歴史ボランティアなどの積極的な活用	13	43%
生活の知恵の伝承、習得した専門的知識・技能の社会への還元 ・当別町子ども会育成連合会「新春子どもカルタ大会」支援 ・地域子ども教室(昔あそび、囲碁教育、折り紙教育等)支援	16	53%
その他(手芸など)	1	4%
合 計	30	



3 その他、熟年期の生涯学習に関して自由に記載してください。(実施してほしい事業等があれば)

資料5

第4次当別町生涯学習推進計画策定委員会名簿

(当別町社会教育委員会)

職名	氏名	所属等
委員長	岩部 明	元道立高校教諭
副委員長	高橋 千枝子	文化活動実践者
委員	宮尾 道子	当別町女性団体連絡協議会
委員	曾川 昭治	当別町文化協会
委員	堀田 則子	図書活動実践者
委員	菊崎 睦裕	当別町校長会（当別小学校）
委員	浅田 眞	当別町校長会（弁華別中学校）
委員	大畑 裕貴	当別町PTA連合会
委員	野口 和之	当別町スポーツ推進委員
委員	片岡 孝治	当別町子ども会育成連合会

第4次当別町生涯学習推進計画策定事務局会議

事務局長	教育委員会社会教育課長
事務局員	企画部美しいまちづくり課主幹
事務局員	福祉部福祉課保健サービス係長
事務局員	福祉部子育て推進課主幹
事務局員	福祉部子育て推進課主幹
事務局員	教育委員会管理課総務係長
事務局員	教育委員会管理課学校教育係長
事務局員	教育委員会管理課学校教育係主査
事務局員	教育委員会社会教育課主幹
事務局員	教育委員会社会教育課社会教育係長

資料6

当別町第4次生涯学習推進計画策定経過

日	程	会 議 名	内 容
平成 25年	5月13日	第1回事務局会議	生涯学習推進計画策定に向けた方向性の確認 今後のスケジュールの確認
	5月	第1回社会教育委員会 (生涯学習推進計画策定会議)	5年間の評価・検証、計画策定趣旨等の確認 計画骨子についての協議、策定スケジュール確認
	6月	事務局打合せ	計画資料収集
	7月	事務局打合せ	グループアンケート作成
	8月	事務局打合せ	計画素案づくり
	8月26日	第2回事務局会議 (生涯学習推進計画策定会議)	計画(素案)づくり、グループアンケートの実施
	10月	グループアンケートの実施	関係団体対象
	11月	グループアンケートの取り まとめ	調査結果・分析・まとめ
	12月12日	第3回事務局会議	計画(素案)協議
	12月20日	第2回社会教育委員会 (生涯学習推進計画策定会議)	計画(素案)協議
平成 26年	1月9日	第4回事務局会議	計画(素案)協議
	1月14日	第3回社会教育委員会 (生涯学習推進計画策定会議)	計画(素案)の確認
	1月28日	臨時教育委員会	計画(素案)の協議
	1月20日 ～ 2月10日	パブリックコメント	主要公共施設・インターネットHPなどにおいて計画(素案)を公開・意見募集
	2月13日	第5回事務局会議	意見のとりまとめ、計画(案)修正
	2月14日	第4回社会教育委員会 (生涯学習推進計画策定会議)	最終確認、計画(案)完成
	2月19日	定例教育委員会	議案提出、承認
	3月上旬	議会報告	総務文教常任委員会

あとがき

わが国は、少子・高齢化の急激な進行や不安定な経済情勢などにより、私たちを取り巻く社会状況は大きく変化しています。

また、教育についても、家庭や地域における教育力の低下、子どもの「生きる力」や学力・体力の低下など、さまざまな課題が顕在化し、未来を担う子どもたちの教育に対する期待はますます高まっています。



こうした状況のなか、教育にかかわる諸課題に対応した当別町としての教育のあり方やめざす方向性を示すことを目的に、「第4次当別町生涯学習推進計画」を策定いたしました。

今後は当別町の豊かな自然環境などまちの特性を十分に活かしながら、子どもから大人まで全ての町民が生涯にわたって学びあい育ちあい、豊かな心を育み、さまざまな場面で活躍できる人づくりと、学びのまちづくりを推進してまいります。

社会教育委員としても町民の皆さんが乳幼児期、青少年期、成人期、熟年期のライフステージに応じ、豊かな学びや体験を通して心豊かで生きがいのある人生を送ることができるように応援してまいりたいと考えております。

最後に、この計画の策定にあたり、熱心にご検討をいただきました関係者の皆様をはじめ、貴重なご意見を賜りました町民の皆様方に対し、心からお礼を申し上げます。

平成26年3月

当別町社会教育委員会

委員長 岩部 明

- 第4次当別町生涯学習推進計画 -

発行日 平成26年（2014年）3月

発行 当別町教育委員会

当別町（教育委員会）ホームページ掲載

<http://www.town.tobetsu.hokkaido.jp/site/kyoiku-top/>